令和8年度　全国学力・学習状況調査

～石狩市における結果の概要～

石狩市教育委員会

令和８年度　全国学力・学習状況調査における石狩市の結果について

Ⅰ　調査概要

● 目的

（１）全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
（２）学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
（３）そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

● 実施日

教科に関する調査（中学校英語以外）令和８年４月２３日（木）
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」令和８年４月２０日（月）～２３日（木）
「話すこと」令和８年４月２４日（金）、２７日（月）、
４月２８日（火）～5 月２９日（金）
児童質問調査　令和８年４月２４日（金）～5 月８日（金）
生徒質問調査　令和８年４月２０日（月）～２３日（木）

● 対象学年・人数

小学校、義務教育学校前期課程の第６学年～１０校　423 名で実施
中学校、義務教育学校後期課程の第３学年～　７校　413 名で実施

● 内容

小学校、義務教育学校前期課程・・・国語　算数　児童質問調査
中学校、義務教育学校後期課程・・・国語　数学　英語　生徒質問調査
小・中学校、義務教育学校・・・・・学校質問調査
※中学校英語は、IRT による経年比較を行うために問題の一部を非公開とし、公開問題と非公開問題を組み合わせた出題方法を採用

Ⅱ　本市の結果概要

● 教科の結果

	小学校		中学校	
	全国平均正答率	全国平均と比較	全国平均正答率	全国平均と比較
国語	60.9%	やや低い	63.9%	低い
算数 数学	56.4%	低い	57.0%	相当低い
英語	―	―	499	相当低い

石狩市における評語（正答率と比較）※中学校英語は 500 を基準とする IRT スコア

相当高い	７％以上	相当低い	－７％以下
高い	５％以上７％未満	低い	－５％以下－７％未満
やや高い	３％以上５％未満	やや低い	－３％以下－５％未満
ほぼ同様（上位）	１％以上３％未満	ほぼ同様（下位）	－１％以下－３％未満
同様	±１％未満		

● 児童・生徒質問調査の結果

【自分自身について】【人との関わりについて】【学習について】【家庭生活について】

☆ 改善傾向

（１）挑戦心、自己有用感等に関わる項目において、「将来の夢や目標を持っていますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、小学生は全国平均と同様で、中学生は若干上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

（２）幸福感に関わる項目において、「学校へ行くのは楽しいですか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、小学生、中学生とも全国平均を若干下回っているものの、昨年と比べて増加傾向にあります。

（３）幸福感に関わる項目において、「友人関係に満足していますか」では、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合は、中学生は全国平均を若干上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

（４）基本的生活習慣に関わる項目において、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、「している」と回答した割合は、小学生、中学生とも全国平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。

★ 課題傾向

（１）基本的生活習慣に関わる項目において、「朝食を毎日食べている」では、「している」と回答した割合は、小学生、中学生ともに全国平均を下回っています。

（２）学習習慣に関わる項目において、「学習の授業時間以外に、普段、1 日当たりどれくらいの時間、勉強していますか」では、「1 時間以上」と回答した割合は、中学生は全国平均を大きく下回り、昨年と比べて減少傾向にあります。

（３）学習に対する興味・関心や授業の理解度に関わる項目のうち、「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分かりますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答した割合は、中学生は全国平均を大きく下回り、昨年と比べて減少傾向にあります。

● 学校質問調査の結果

多くの項目で小学校、中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回っています。

以下、特徴的な結果です。

（１）全国学力・学習状況調査結果や地域の教育資源を活用する教育課程を編成し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT の活用や対話活動など取り入れたり、他者と協力して学習課題を解決する活動を工夫したりと授業改善に取り組んでいます。

（２）小中連携の取組は全国・全道平均を大きく上回り、各中学校区で充実した内容が推進されています。

（３）家庭学習を推進するために、児童生徒が自分で取り組む内容や学び方を決めることができるように、家庭での学習方法を教えています。

Ⅲ 成果と課題

○ 成果

（１）小学校の国語は、正答率が全国平均に届かなかったものの、「読むこと」領域において、全道平均を上回り、全国平均とほぼ同様となりました。また、記述式問題の正答率は、全国平均を上回りました。中学校の国語は、正答率が昨年度より上昇し、全道平均とほぼ同様となり、全国平均に近づきました。各領域においても昨年度を上回りました。小学校、中学校ともに授業改善の取組の成果が見られます。

（２）小学校の算数は、正答率が全国平均よりやや低いですが、「測定」の領域が昨年度を上回りました。記述式問題の無解答率は、全国平均を下回りました。中学校の数学は、正答率が全国平均との差がありますが、昨年度より上昇しました。「数と式」「データ活用」の領域が昨年度より上昇しました。

（３）中学校の英語は、平均 IRT スコアにおいて、全国平均と差がありますが、公開問題において令和５年度と比較すると「聞くこと」「話すこと」「書くこと」の領域が大きく上昇しました。

● 課題

（１）小学校、中学校の国語は、「書くこと」領域に課題があります。それぞれ全国平均を下回り、小学校は、昨年度よりも下降しています。

（２）小学校、中学校とも、算数・数学の正答率が全国平均を大きく下回っています。特に中学校は、相当低いという結果でした。領域別では、小学校は「図形」「変化と関係」、中学校は「図形」「関数」に課題があります。

（３）中学校の英語の平均 IRT スコアは全国より相当低く、IRT バンドは「２」が多い結果です。

Ⅳ 今後の改善策

● 子どもの主体的な学びを重視した授業改善の推進

（１）単元を見通して育成を目指す資質・能力（単元の目標）の明確化とそれに伴う評価規準（「知・技」「思・判・表」「主学態」）の設定

（２）系統性を押さえ、評価規準を踏まえた学習活動をバランスよく位置付ける単元計画の作成・実行

（３）ICT 機器を有効活用した指導の個別化と学びの質を高める対話活動の一体的な充実

（４）こどもの権利をベースにした学び合う人間関係づくり・学習集団づくりの推進

（５）小中の教育課程の接続を意識し、授業を学び合う取組の活性化

● 学校改善プランの組織的な策定と確実な実行

（１）各種調査結果を踏まえ、成果・課題・改善策を明確にした学校改善プランの組織的な見直し

（２）学校全体での目標と改善策の共通理解と共通実践

（３）学校改善プランに基づく取組の確実な進行管理

● 家庭・地域と一体となった取組の推進

（１）保護者や地域住民への調査結果や改善方策等の提示

（２）生活・学習習慣の改善に向けた児童生徒が自らの生活・学びを調整する力の育成

【用語説明】

IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさしで比較できる。
IRTスコア	IRT に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
IRTバンド	IRTスコアを１～５の５段階に区切ったもので、平均バンドは３で、５が最も高いバンドとなる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均３を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。
パーセンタイル	データ全体を小さい順に並べたときに、ある値が下から数えて何%の位置に相当するかを表す数値。小さい値から数えて、総数の1/4 番目に当たる値が第一四分位（25 パーセンタイル）、真ん中に当たる値が第二四分位（中央値、50 パーセンタイル）、3/4 番目に当たる値が第三四分位（75 パーセンタイル）となる。

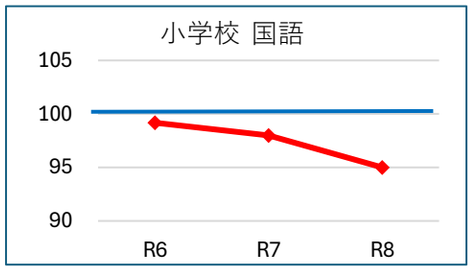
令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果分析（小学校）について

【 国　語 】

● 平均正答率

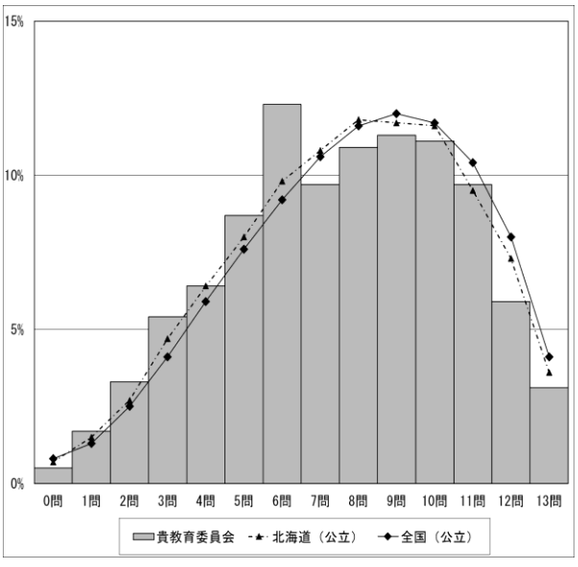
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	7.9/13問	60.9%	やや低い （－３％以下～－５％未満）
全道	7.8/13問	59.6%	同様下位 （－１％以下～－３％未満）

● 経年変化

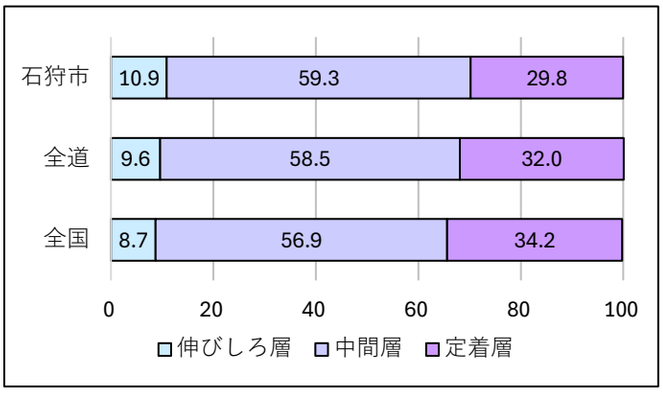


※全国平均を100とする

● 正答数分布

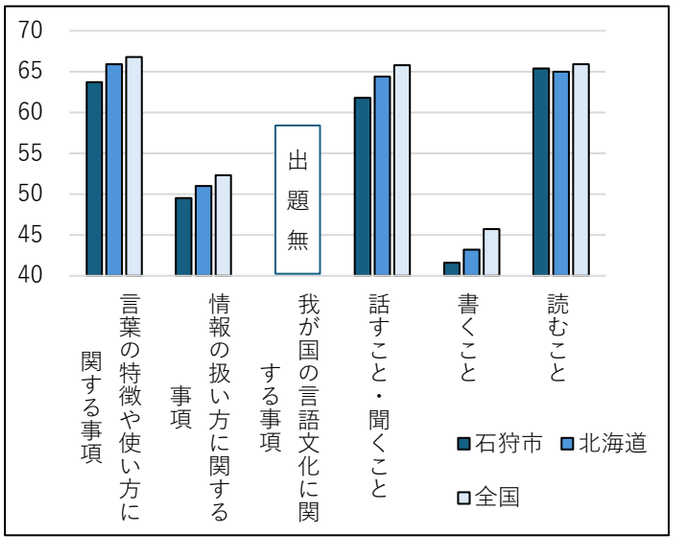


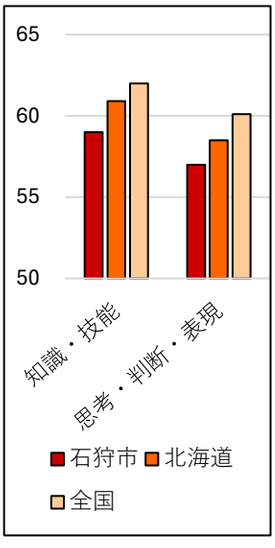
● 三層割合

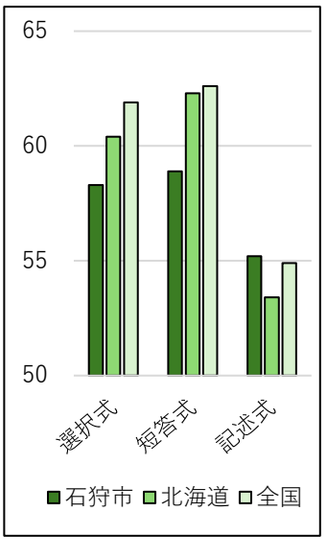


伸びしろ層：正答数０～３問
中間層：４～９問
定着層：１０～１３問

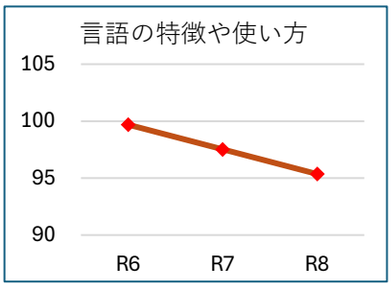
● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率

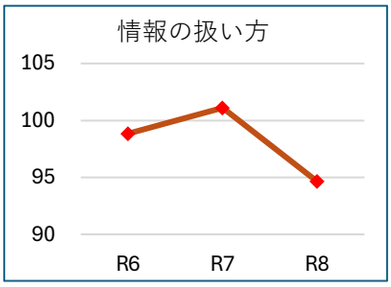


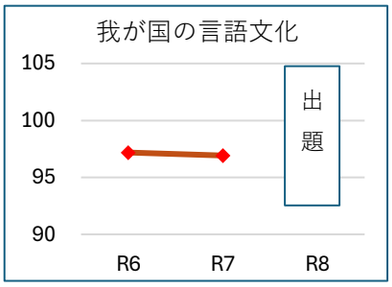


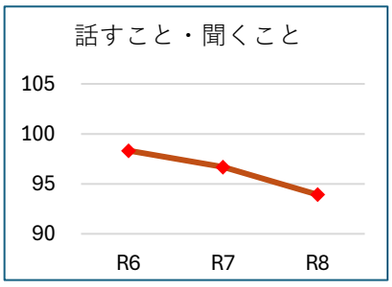


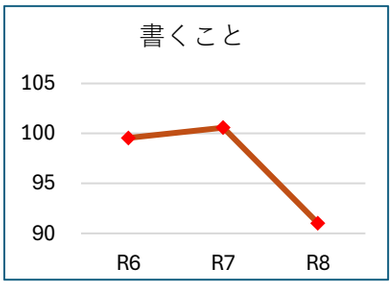
● 領域等の経年変化　※全国平均を100とする

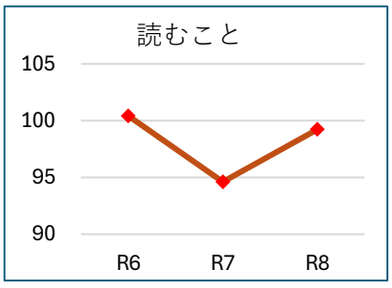












● 結果の概要

◇国語の正答率は、全国と比較するとやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。
　令和７年度と比較すると、下降しました。
◇領域別「知識及び技能」についての結果です。
　「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「情報の扱い方に関する事項」は、全国、全道とほぼ同様（下位）
　「我が国の言語文化に関する事項」は、出題無し
◇領域別「思考力、判断力、表現力等」についての結果です。
　「話すこと・聞くこと」は全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「書くこと」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「読むこと」は、全国、全道と同様
◇問題形式別についての結果です。
　「選択式」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「短答式」は、全国、全道よりやや低い
　「記述式」は、全国と同様、全道とほぼ同様（上位）

● 調査問題の内容

　学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、小学校第５学年までの内容となっています。
（例）
■【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。
■【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。
■【文章】の特徴として適切なものを選択する。
■【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く。
■ 設問数は１３問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	北海道	全国
１二（３）	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.0	63.8	65.2
３三（２）	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	読むこと	78.7	76.3	76.4

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	全国	全国との差
１二（１）	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	54.4	60.2	-5.8
２一	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	書くこと	51.5	57.9	-6.4

● 指導の改善

【問題番号１二（１）　話すこと・聞くこと】

○資料を活用するとは、音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すことです。

・指導に当たっては、資料の活用による効果も予想しながら考えられるよう指導することが大切です。また、目的や相手、状況などを踏まえて、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方などに注意するよう指導することも大切です。

【問題番号２一　書くこと】

○筋道の通った文章にするためには、文章全体の構成を工夫することに加え、「考えと理由や事例」、「原因と結果」、「疑問と解決」などのつながりや配列を意識して文章全体の筋道を整えていくことが重要です。

・指導に当たっては、文章全体の筋道を整えるためにどのようなつながりや配列があり、それぞれにどのような効果があるのかを教師が整理しておくことが大切です。その上で、書き手である児童が「読み手にどのように読み進めていってほしいか」という目的に応じて、ふさわしいつながりや配列を考えて書き表すことができるようにすることが重要です。

● 国語に関する意識調査（児童質問紙項目52～59、国1より）

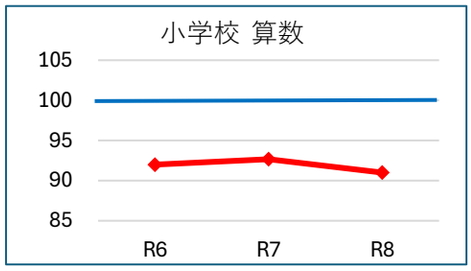
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
52	国語の勉強は得意ですか	58.2	60.4	-2.2
53	国語の勉強は好きですか	58.2	57.4	0.8
54	国語の授業内容はよく分かりますか	79.2	81.5	-2.3
55	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.8	90.4	-0.6
56	５年生までに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか	82.0	78.1	3.9
57	５年生までに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	82.9	75.1	7.8
58	５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか	81.3	80.7	0.6
59	５年生までに受けた授業では、国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめていましたか	79.7	78.3	1.4
国1	「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	83.5	79.3	4.2
	２問あった記述式問題の無解答率の平均	6.5	10.4	-3.9

【 算　数 】

● 平均正答率

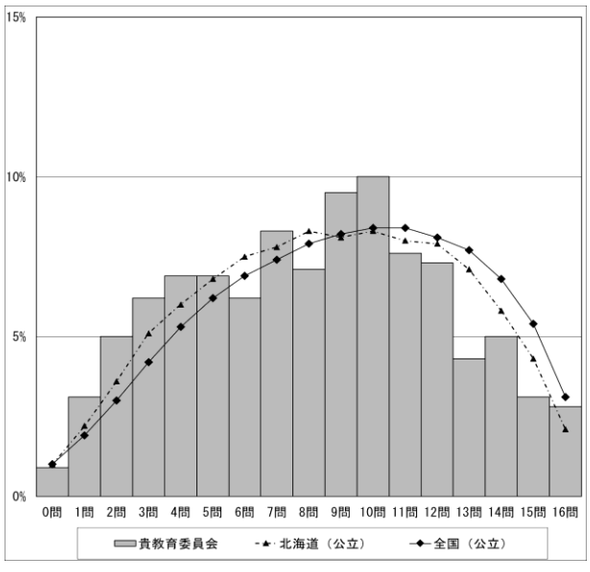
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.0/16問	56.4%	低い （－５％以下～－７％未満）
全道	8.6/16問	53.6%	ほぼ同様下位 （－１％以下～－３％未満）

● 経年変化

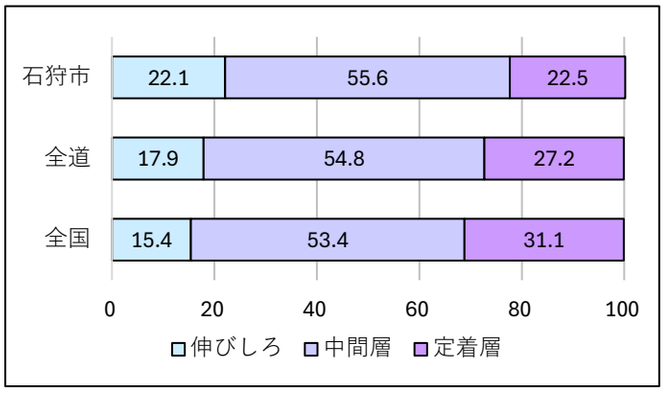


※全国平均を100とする

● 正答数分布

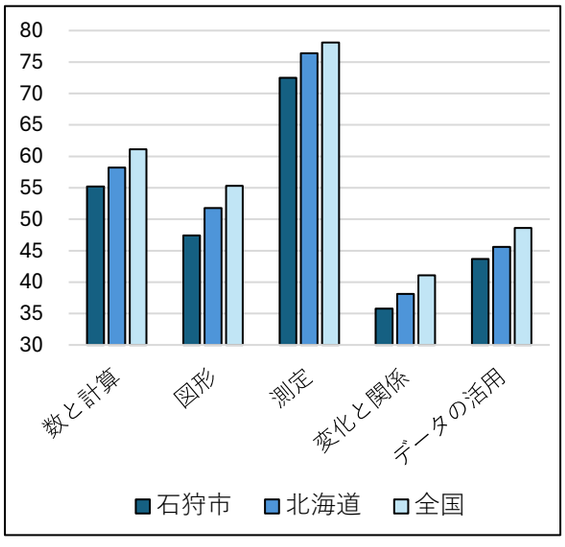


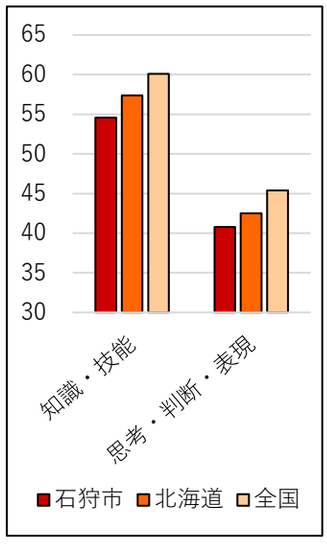
● 三層割合

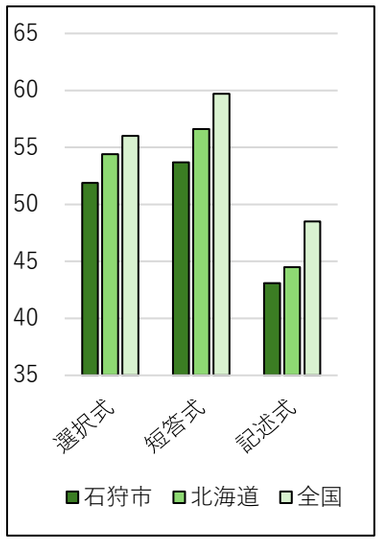


伸びしろ層：正答数０～４問
中間層：５～１１問
定着層：１２～１６問

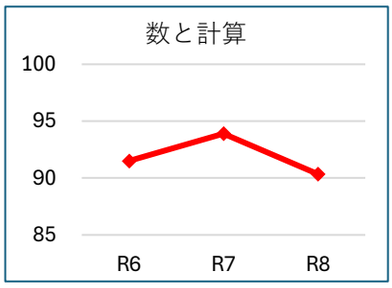
● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率

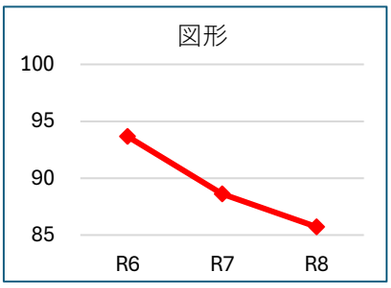


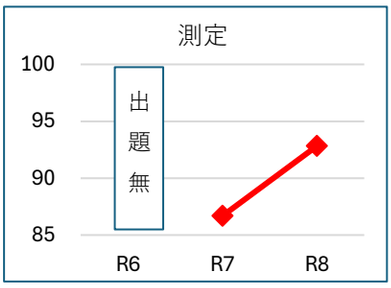


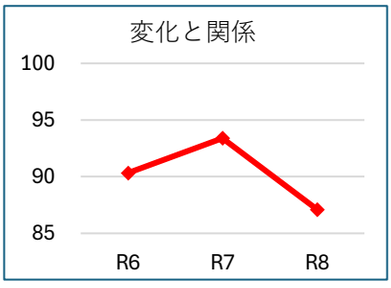


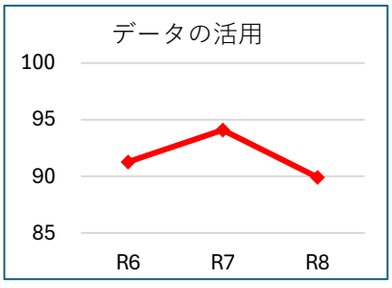
● 領域等の経年変化　※全国平均を100とする











● 結果の概要

◇算数の平均正答率は、全国より低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。
　令和７年度と比較すると、若干下降しました。
◇領域別についての結果です。
　「数と計算」「測定」は、全国より低く、全道よりやや低い
　「図形」は、全国より相当低く、全道よりやや低い
　「変化と関係」は、全国より低く、全道とほぼ同様（下位）
　「データの活用」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
◇問題形式別についての結果です。
　「選択式」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「短答式」「記述式」は、全国より低く、全道とほぼ同様（下位）

● 調査問題の内容

　学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、小学校第５学年までの内容となっています。
（例）
■7/3と7/4のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く。
■一辺が８㎝の立方体の体積を求める式を書く。
■イシガメ14匹が動物園全体のカメの数の20％に当たるときの、動物園全体のカメの数を求める式と答えを書く。
■二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。
■ 設問数は１６問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	北海道	全国
2 （1）	７４２９１の百の位の数を四捨五入して、千の位までの概数で表したものを選ぶ	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	数と計算	68.7	63.1	66.5
3 （1）	１、５、９の３枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	数と計算	93.6	94.4	94.5
4 （4）	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何％かを選ぶ	帯グラフの特徴と用い方を理解し、およその割合を読み取ることができるかどうかをみる	データの活用	72.0	73.8	74.9

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	全国	全国との差
1 （1）	一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	図形	62.1	72.7	-10.6
1 （4）	四つの箱のまとめ方によって宅配便の送料に違いがあるかを調べるために、直方体イの送料の求め方とその答えを書く	日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	数と計算 図形 データの活用	35.1	45.2	-10.1
3 （2）	二つの小数のどちらが５に近いかを判断するために、６．３７－５と５－３．７６を計算する	二つの小数のどちらが５に近いかを判断するために、６．３７－５と５－３．７６を計算する	数と計算	46.9	58.1	-11.2

● 指導の改善

【問題番号１（１）図形】
○立方体や直方体の体積が、互いに直交する三つの辺の長さによって決まることから、立方体の体積が、（一辺）×（一辺）×（一辺）で求められることを、理解できるようにすることが重要です。
・指導に当たっては、例えば、長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動が考えられます。その際、立方体や直方体は一辺が１cmや１mなどの単位体積の立方体を積み重ねてつくることができることから、単位体積の立方体をきちんと敷き詰めた１段分の個数と、その段の個数をかけあわせることで、直方体や立方体の体積を求められることを理解できるようにすることが大切です。

【問題番号１（４）数と計算　図形　データの活用】
○日常生活の問題について、身の回りのものを図形として捉え、図形を構成する要素に着目して考察できるようにすることが重要です。
・指導に当たっては、例えば、同じ形の直方体４個をいろいろなまとめ方をしたときの送料を考える活動が考えられます。その際、まとめた直方体が直方体でどのように構成されているかについて考え、まとめた直方体の縦の長さ、横の長さ、高さを捉えることができるようにすることが大切です。また、同じ直方体４個をまとめた直方体でも、まとめ方により三つの辺の長さやその合計が変わり、送料が変わる場合があることに気付くことができるようにすることも大切です。

【問題番号３（２）数と計算】
○小数の加法及び減法の計算は、整数と同じ原理、手順でできることを理解できるようにすることが重要です。
・指導に当たっては、例えば、小数の加法及び減法の計算の仕方を考える活動が考えられます。その際、下のように、小数の加法及び減法は、小数の仕組みの理解に基づき、整数と同じ原理、手順でできることを理解できるようにすることが大切です。

● 算数に関する意識調査（児童質問紙項目60～67、算1より）

質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
60	算数の勉強は得意ですか	55.6	60.1	-4.5
61	算数の勉強は好きですか	52.9	57.6	-4.7
62	算数の授業内容はよく分かりますか	77.9	77.5	0.4
63	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.6	91.0	-1.4
64	５年生まで受けた授業では、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていますか	84.1	83.2	0.9
65	５年生まで受けた授業では、算数の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	83.8	81.7	2.1
66	５年生まで受けた授業では、算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	69.1	63.0	6.1
67	５年生まで受けた授業では、算数の授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか	87.3	88.3	-1.0
算1	「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	80.7	77.7	3.0
	４問あった記述式問題の無解答率の平均	4.0	4.2	-0.2

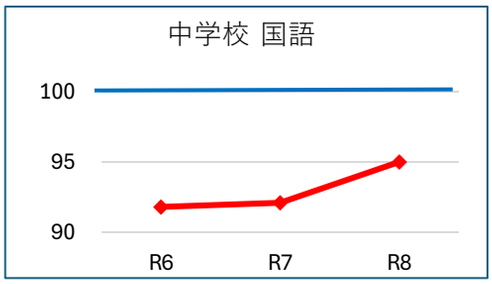
令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果分析（中学校）について

【 国　語 】

● 平均正答率

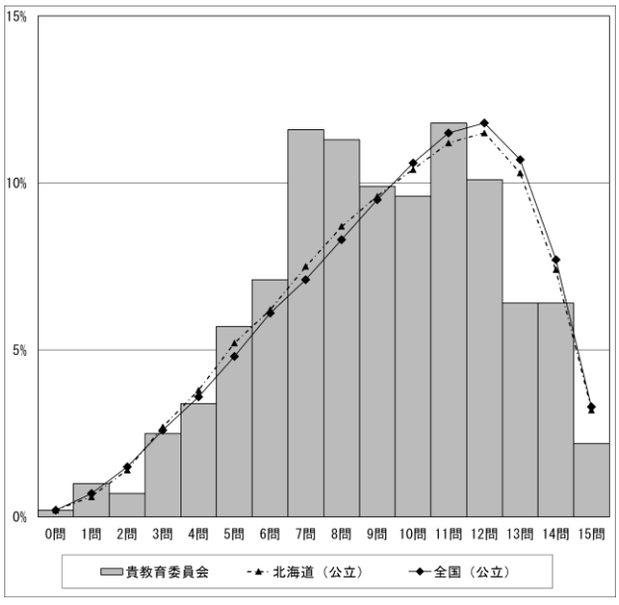
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.6/15問	63.9%	やや低い （－３％以上～－５％未満）
全道	9.5/15問	63.3%	同様下位 （－１％以上～－３％未満）

● 経年変化

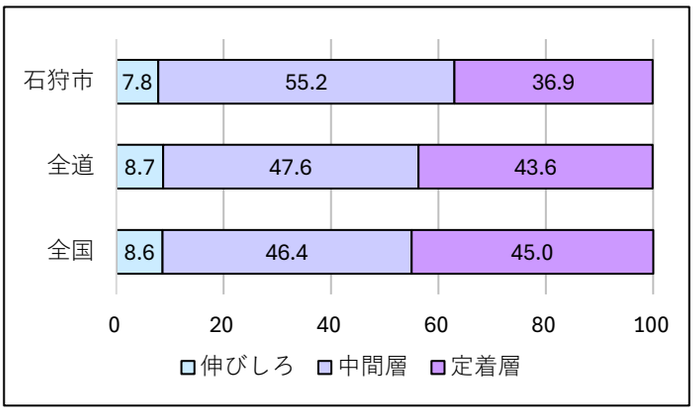


※全国平均を100とする

● 正答数分布

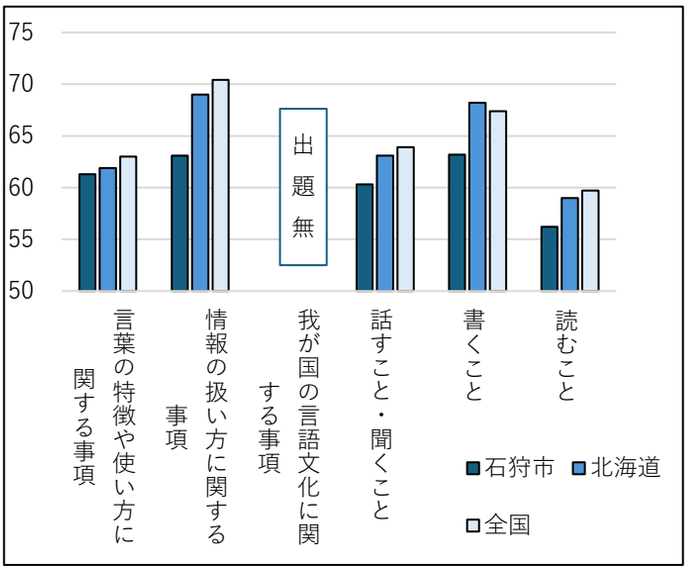


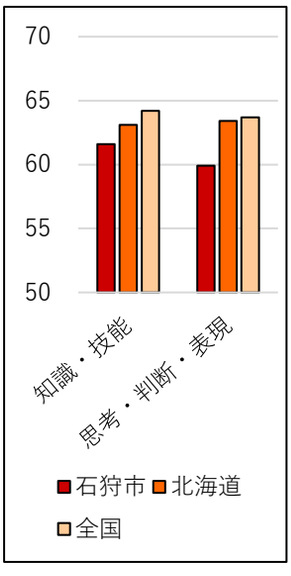
● 三層割合

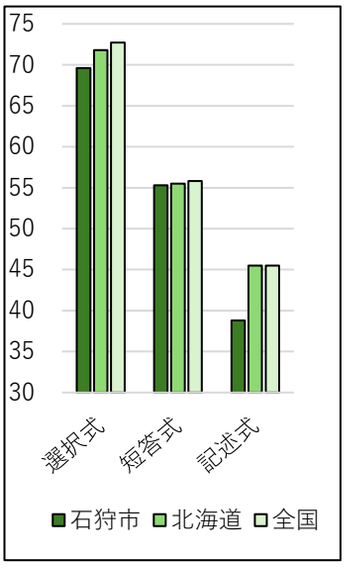


伸びしろ層：正答数０～４問
中間層：５～１０問
定着層：１１～１５問

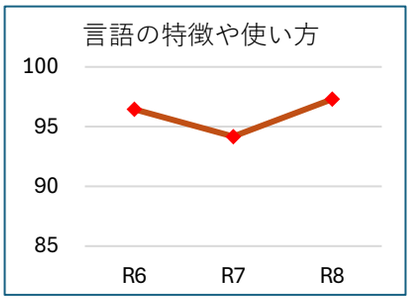
● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率

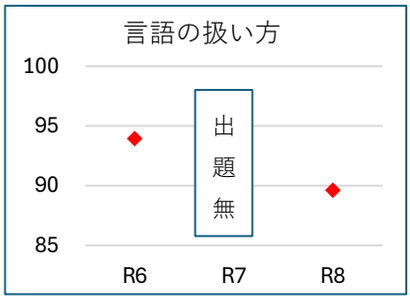


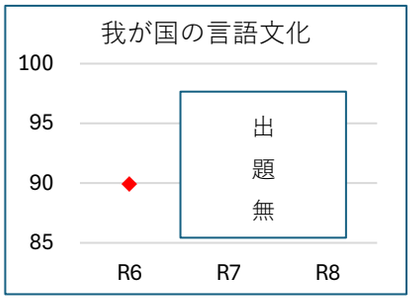


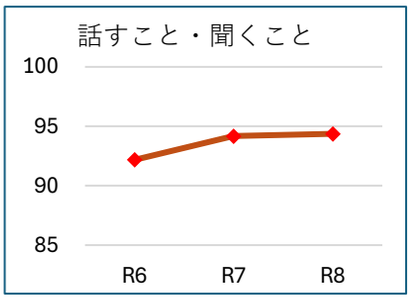


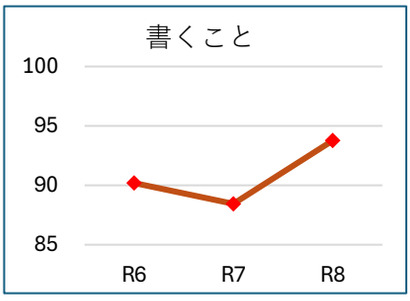
● 領域等の経年変化　※全国平均を100とする

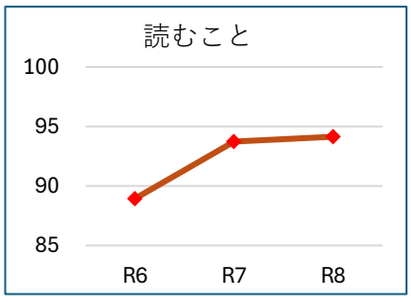












● 結果の概要

◇国語の正答率は全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）の結果でした。
　令和７年度との比較すると、上昇しました。
◇領域別「知識及び技能」についての結果です。
　「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国とほぼ同様（下位）、全道と同様
　「情報の扱い方に関する事項」は、全国より相当低く、全道より低い
　「我が国の言語文化に関する事項」は、出題無し
◇領域別「思考力、判断力、表現力等」についての結果です。
　「話すこと・聞くこと」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「書くこと」は、全国よりやや低く、全道より低い
　「読むこと」は、全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
◇問題形式別についての結果です。
　「選択式」は全国よりやや低く、全道とほぼ同様（下位）
　「短答式」は全国・全道と同様
　「記述式」は全国・全道より低い

● 調査問題の内容

　学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第２学年までの内容となっています。
（例）
■文中の「投げられる」の単語の類別について説明したものとして適切なものを選択する。
■話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く。
■書いた文章について、読み手からの助言を踏まえてよい点や改善点を見いだす。
■文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	北海道	全国
１三	「ら抜き言葉」であるものを選択する	単語の類別について理解しているかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	82.0	84.7	85.4
３二	気持ちがより伝わるように、表現を工夫して書く	表現の効果を考えて描写することができるかどうかをみる	書くこと	91.1	92.4	92.3

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	全国	全国との差
２三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	情報の扱い方に関する事項	63.1	70.4	-7.3
２四	話合いを受けてどのような意見を述べるか、自分の考えを書く	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	42.9	52.7	-9.8

● 指導の改善

【問題番号２三　情報の扱い方に関する事項】

○ 話合いを円滑に進めるために、それぞれのもつ情報を整理して、その関係を分かりやすく明確にすること大切です。情報の整理の仕方を理解し、実際の話合いの中で使うなど、各領域の学習との関連を図ることが重要です。

・情報と情報を線や矢印で結び付けたり、丸や四角などの枠で囲んでグループに分けたりするなど、聞いたり読んだりして得た情報や自分のもっている情報を、図や絵、記号などを用いて整理することが効果的です。また、目的や意図に合わせて、情報の表現の仕方を工夫することも大切です。

【問題番号２四　書くこと】

○互いの立場や考えを尊重しながら話し合うためには、話合いに参加している者が、それぞれの置かれた立場や意見が出された背景について理解しながら話したり聞いたりすることが重要です。

・結論を導くために考えをまとめるには、一方的に自分の考えを主張するのではなく、互いの考えを捉える中で見いだした共通点や相違点、新たな提案などを踏まえて、話合いが進展するように、自分の考えが伝わるような発言をすることが大切です。

● 国語に関する意識調査（生徒質問調査項目44～51、国1より）

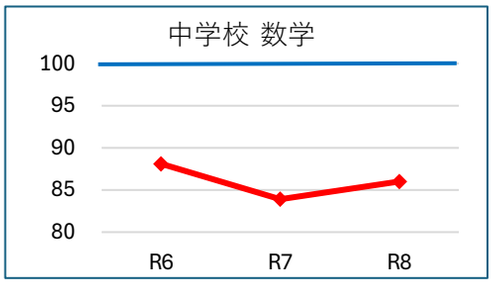
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
44	国語の勉強は得意ですか	54.5	51.6	2.9
45	国語の勉強は好きですか	57.8	57.2	0.6
46	国語の授業内容はよく分かりますか	73.8	76.8	-3.0
47	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	87.2	88.2	-1.0
48	１．２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えくれますか	77.5	73.0	4.5
49	１．２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれますか	78.9	71.8	7.1
50	１．２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか	88.1	84.8	3.3
51	１．２年生のときに受けた授業では、国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか	79.7	76.1	3.6
国1	今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	74.9	72.4	2.5
	３問あった記述式問題の無解答率の平均	15.0	14.7	0.3

【 数　学 】

● 平均正答率

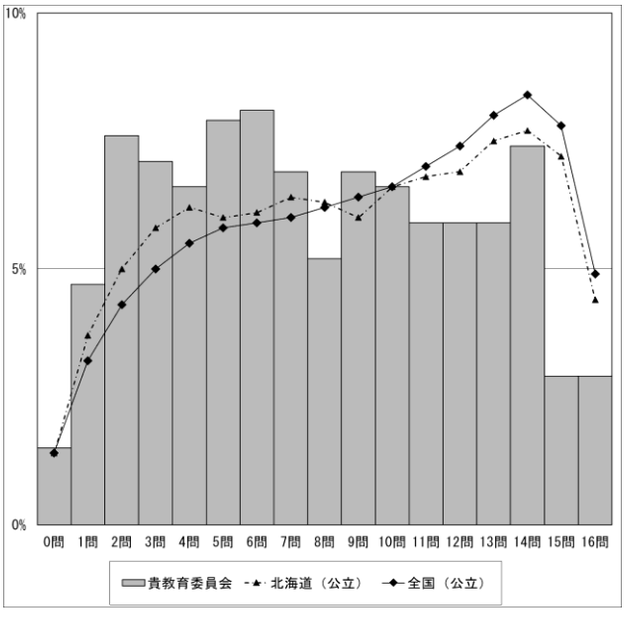
	平均正答数	平均正答率	石狩市（全国、全道との比較）
全国	9.1/16問	57.0%	相当低い （－7%以上）
全道	8.8/16問	55.0%	低い （－５％以上～－７％未満）

● 経年変化

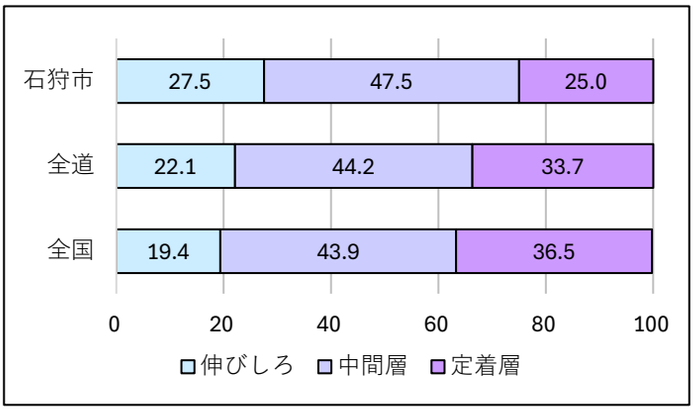


※全国平均を100とする

● 正答数分布

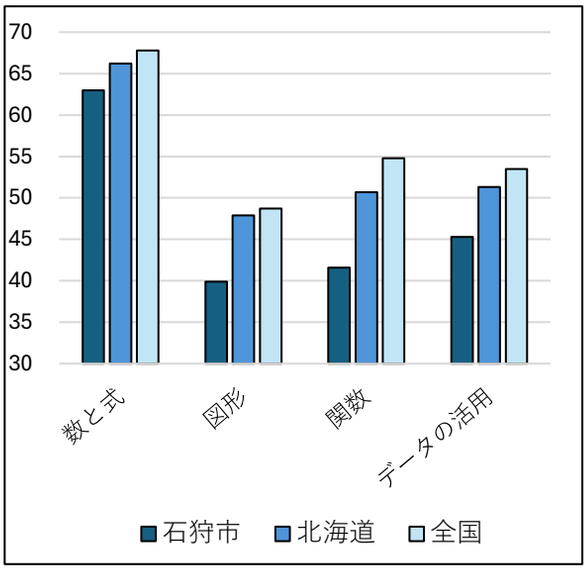


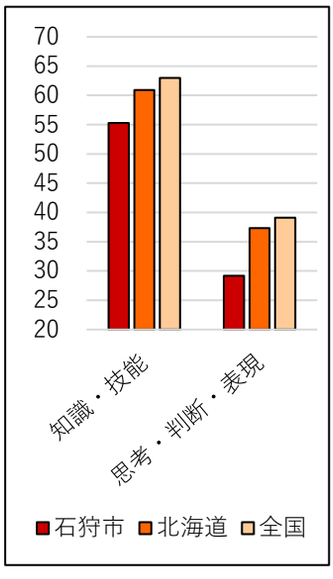
● 三層割合

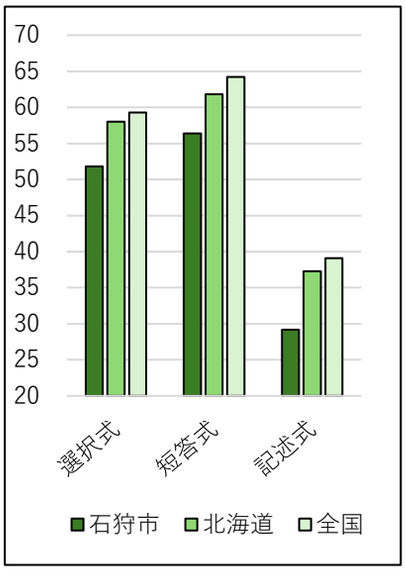


伸びしろ層：正答数０～４問
中間層：５～１１問
定着層：１２～１６問

● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率

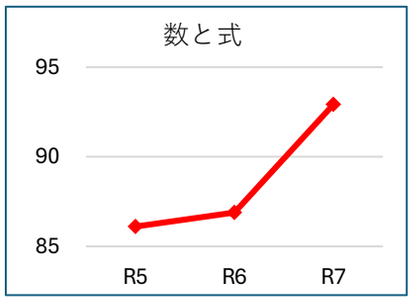


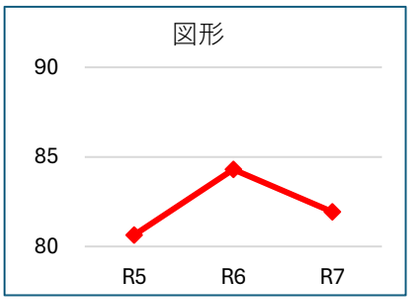


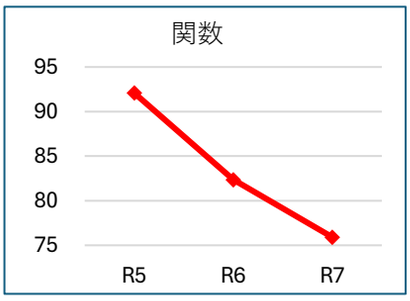


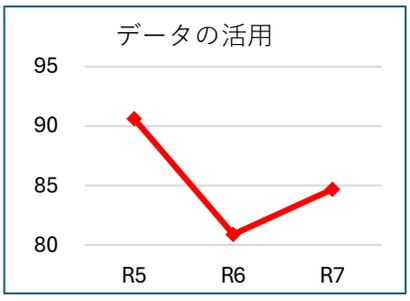
● 領域等の経年変化

※全国平均を100とする









● 結果の概要

◇数学の平均正答率は、全国より相当低く、全道より低い結果でした。
　令和７年度との比較では、若干上昇しました。
◇領域別についての結果です。
　「数と式」は、全国、全道よりやや低い
　「図形」「関数」は、全国、全道より相当低い
　「データの活用」は、全国より相当低く、全道より低い
◇問題形式別についての結果です。
　「選択式」「短答式」は全国より相当低く、全道より低い
　「記述式」は、は全国、全道より相当低い

● 調査問題の内容

　学習指導要領における、「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、中学校第２学年までの内容となっています。
（例）
■四角形ＰＱＲＳにおいて、ＰＳ∥ＱＲを示すための根拠となる二つの角を選ぶ。
■手順にしたがってできたＡとＢについて、Ａ－Ｂの値がどんな数になるかを、選んだ２数の差に着目して説明する。
■データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。
■ ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する。
■ 「就寝時刻が２３時より前の生徒と比べて、２３時以降の生徒の方が睡眠時間が短い傾向にある」と主張できる理由を、二つの度数分布多角形の形と位置を比較して説明する。
■設問数は１６問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	北海道	全国
1	２月３日のＡ市の最高気温が最低気温より何℃高くなったかを書く	具体的な場面において、正の数と負の数を用いて変化や状況を表すことができるかどうかをみる	数と式	86.7	85.3	85.7
6（1）	選んだ２数が３と６のときについて、陸斗さんの予想が成り立つことを示す式を書く	問題場面における考察の対象を明確に捉えているかどうかをみる	数と式	68.8	71.8	73.2

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	全国	全国との差
4	反比例の表において、ｘの値が－３のときのｙの値を求める	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、ｘの値に対応するｙの値を求めることができるかどうかをみる	関数	36.1	55.3	-19.2
7（2）	データ量が１０００ＭＢになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	関数	23.1	33.9	-10.8
8（2）	図１において、ＡＢ＝ＡＰ、ＯＢ＝ＯＰならば∠ＡＯＢ＝∠ＡＯＰであることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	図形	33.7	46.1	-12.4
9（2）	学年別の睡眠時間について、学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ	箱ひげ図と四分位数の対応について理解しているかどうかをみる	データの活用	65.1	75.8	-10.7

● 指導の改善

【問題番号４　関数】

○ 反比例の表から二つの数量の変化や対応の特徴を捉えたり、それらの特徴を基にｘの値に対応するｙの値を求めたりする活動を取り入れ、反比例の意味の理解を深めることができるように指導することが大切です。

・ 本問を使って授業を行う際には、、ｙ＝ａ/ｘという式で表されることや、「ｘの値が２倍、３倍、･･･になると、ｙの値が １/２ 倍、１/３ 倍、･･･になる」や「ｘとｙの積が一定である」といった性質を基にした説明を取り上げることを通して、反比例について振り返ることができるようにすることが大切です。

【問題番号７（２）　関数】

○ 様々な問題を数学を活用して解決する際に、問題解決の方法に焦点を当て、例えば、表、式、グラフなどの「用いるもの」と、それらを問題解決するためにどう用いたかといった「用い方」について考え、数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切です。

・ 本問を使って授業を行う際には、表に示された数値から変化や対応の様子を捉えたり、グラフに示された点の並びに着目したりするなどして、二つの数量の関係を比例と仮定して考えられるようにすることが大切です。

【問題番号８（２）　図形】

○ 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論を数学的に表現できるように指導することが大切です。

・本問を使って授業を行う際には、手順で元の角の2倍の大きさの角が作図できる理由を説明する活動を取り入れることが考えられます。また、証明を書き終えた後に、筋道を立てて説明できているか、根拠は明確であるか、記号や用語の使い方は適切かなどの視点で、証明を振り返る活動を取り入れることも大切です。

【問題番号９（２）　データの活用】

○ 複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動を通して、箱ひげ図の必要性と意味を理解できるように指導することが大切です。

・ 本設問を使って授業を行う際には、「学年別睡眠時間の箱ひげ図から、どのような特徴が読み取れるか」について考察することを通して、四分位数などの必要な値を読み取る活動を取り入れることが考えられます。

● 数学に関する意識調査（生徒質問調査項目60～67、数1より）

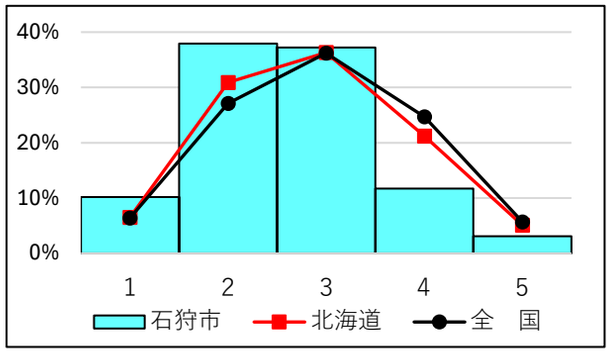
質問内容		肯定的な回答%		全国との差%
		石狩市	全国	
60	数学の勉強は得意ですか	33.6	48.5	-14.9
61	数学の勉強は好きですか	44.8	56.1	-11.3
62	数学の授業内容はよく分かりますか	53.5	74.2	-20.7
63	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	67.1	76.5	-9.4
64	１．２年生のときに受けた授業では、数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか	61.0	63.0	-2.0
65	１．２年生のときに受けた授業では、数学の問題の解き方が分からない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えましたか	74.3	77.8	-3.5
66	１．２年生のときに受けた授業では、数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか	56.9	60.4	-3.5
67	１．２年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができましたか	57.8	68.4	-10.6
数1	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」と回答	53.6	57.6	-4.0
	４問あった記述式問題の無解答率の平均	35.3	29.3	6.0

【 英　語 】

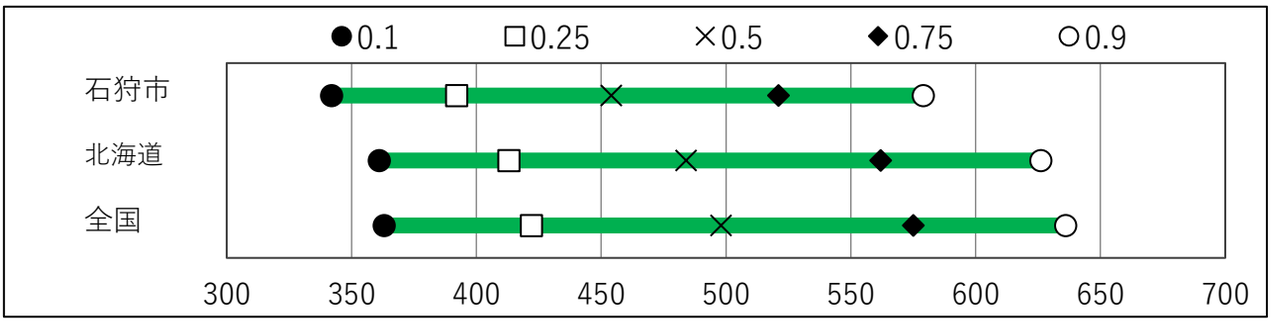
● 平均ＩＲＴスコア

	平均IRTスコア	石狩市（全国、全道との比較）
全国	499	相当低い （－35以上）
全道	490	低い （－25以上～－35未満）

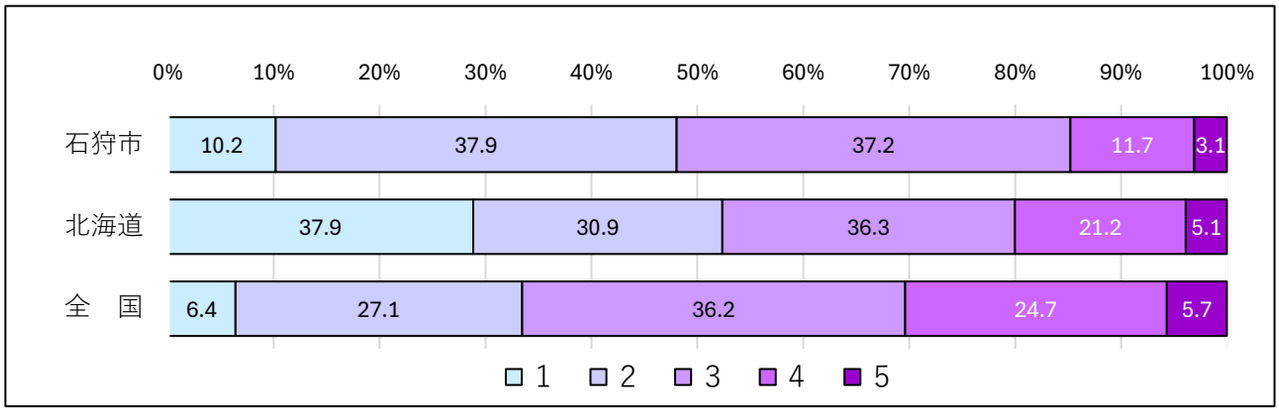
● ＩＲＴバンド分布グラフ



● ＩＲＴスコア分布グラフ

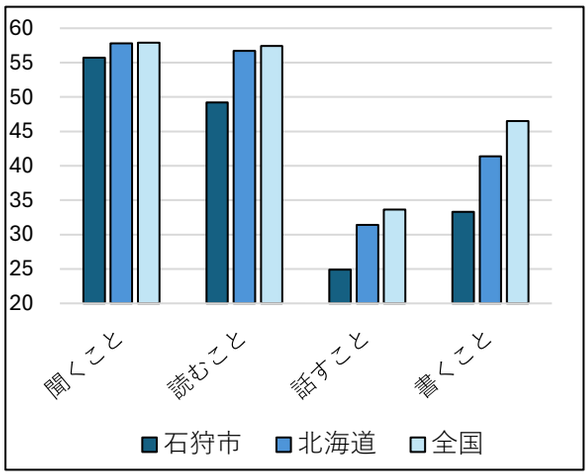


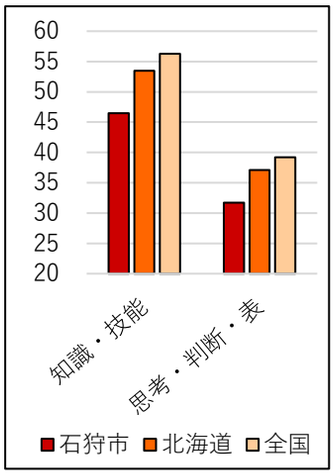
● ＩＲＴバンド分布比較

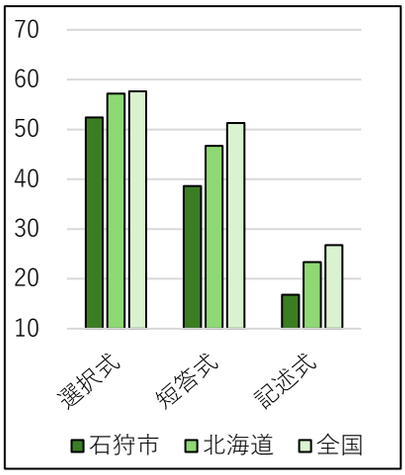


● 領域等、評価の観点、問題形式の平均正答率

（市内全生徒に実施した共通問題９問の結果）

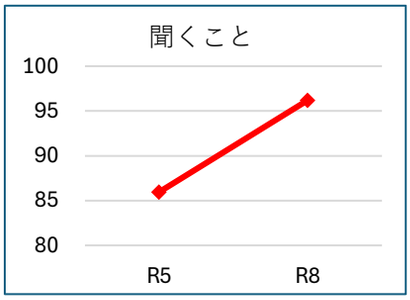


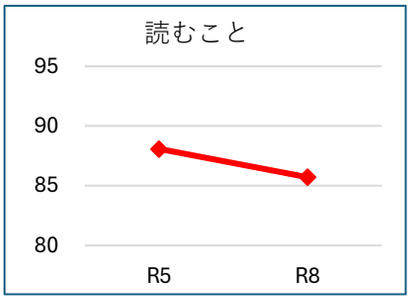


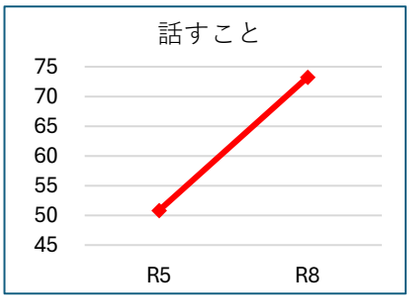


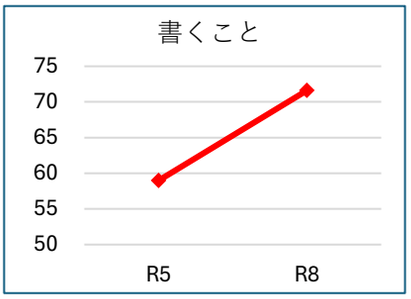
● 領域等の経年変化

※全国平均を100とする









● 結果の概要

◇平均ＩＲＴスコアでは、全国より相当低く、全道より低い結果でした。
◇ＩＲＴバンド分布は、「２」に山があり、「４」「５」が全国、全道より少ない。
◇市内全生徒に実施した共通問題９問における領域別では、「聞くこと」は全国、全道とほぼ同様（下位）、「話すこと」は全国より相当低く、全道より低い、「読むこと」「書くこと」は全国、全道より相当低い結果でした。
◇市内全生徒に実施した共通問題９問における問題形式の正答率では、「選択式」で全国より低く、全道よりやや低い、「短答式」は全国、全道より相当低い、「記述式」は全国より相当低く、全道より低い結果でした。

● 調査問題の内容

学習指導要領に示されている５つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域から出題している。なお、中学校第２学年までの内容となっています。

（例）

■ 話を聞き、概要を捉える（「聞くこと」の領域）
■ 自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取る（「読むこと」の領域）
■ 短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く（「読むこと」、「書くこと」の領域）
■ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す（「話すこと[やり取り]」の領域）
■ 話を聞いて、考えとその理由を話す（「話すこと[発表]」の領域
■共通設問数は９問です。

● 成果の見られる問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	北海道	全国
1	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	聞くこと	60.5	60.0	60.2

● 全国平均と差がある問題例

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	平均正答率％		
				石狩市	全国	全国との差
6	文章を読み、グラフの空所に入る学校行事を選択する	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	読むこと	55.9	67.3	-11.4
10（2）	インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと	16.0	27.8	-11.8
11②	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる	書くこと	34.6	52.7	-18.1

● 指導の改善

【問題番号６　読むこと】
○ 短い文章から情報を読み取るためには、文構造を適切に捉えることが大切です。
・英文を読む際には、主語と動詞、副詞句、前置詞句などの意味のまとまりを捉えながら読ませることが考えられます。修飾によって主語が長くなったり文の構造が複雑になったりしても、意味のまとまりを捉え、情報を読み取ることが大切です。

【問題番号10（２）　書くこと】
○ 読んだことを基に、その内容に関する自分の意見や感想などを書く際には、主張とその理由を明らかにしたり、順序付けを行ったりすることにより、読み手にとって分かりやすい文章を書けるようにすることが重要です。
・指導に当たっては、文章を読んで要点を確認した後、自分の考えをキーワードとしてメモなどに整理させたり、思考ツールに整理させたりすることが考えられます。例えば、書き手の意見に対して賛否をメモに書かせたり、賛成の場合は、理由も同じなのかどうか、反対の場合は、その理由をメモに整理させたりすることが考えられます。

【問題番号11②　書くこと】
○ 正確に書くことができるようにするためには、既習の文法事項などを適切に使い分けて表現することが重要です。
・指導に当たっては、新しい文法事項などを扱ったり、言語活動を行ったりする際に、関連のある文法事項をまとめて整理し、違いを理解することが大切です。例えば、現在進行形の特徴やきまりを学習する際には、現在形との違いを整理して使い分けたり、to不定詞の特徴や決まりを学習する際には、動名詞との違いを整理して使い分けたりさせることが考えられます。

● 英語に関する意識調査（生徒質問調査項目69～80、77は一部回答）

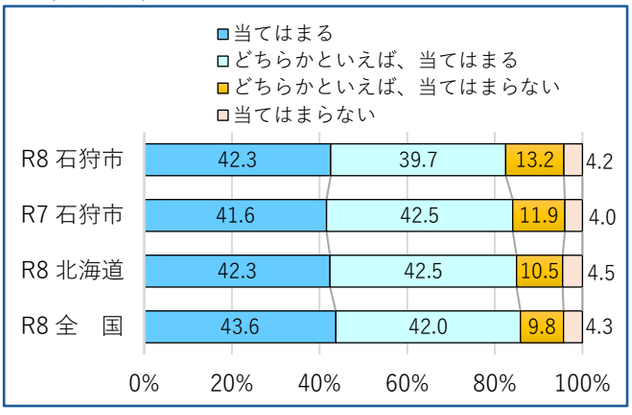
質問内容		肯定的な回答％		全国との差％
		石狩市	全国	
69	英語の勉強は得意ですか	33.4	39.5	-6.1
70	英語の勉強は好きですか	48.7	51.2	-2.5
71	英語の授業の内容はよく分かりますか	53.5	64.2	-10.7
72	英語の授業で学習したことは，将来，社会に出たときに役に立つと思いますか	83.5	87.6	-4.1
73	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいですか	34.6	34.1	0.5
74	キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書くことができますか	73.9	76.7	-2.8
75	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビや動画、ホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	30.5	36.6	-6.1
76	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度、PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか（週１回程度以上）	15.0	25.5	-10.5
78	１、２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていましたか	80.9	85.1	-4.2
79	１、２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていましたか	79.5	82.8	-3.3
80	１、２年生のときに受けた授業では、キーボード（画面上に表示されるキーボードやフリック入力も含む）を使って英語を書く活動をどれくらい行いましたか	55.0	61.3	-6.3

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果分析
（児童生徒質問調査）について

Ⅰ　自分自身について

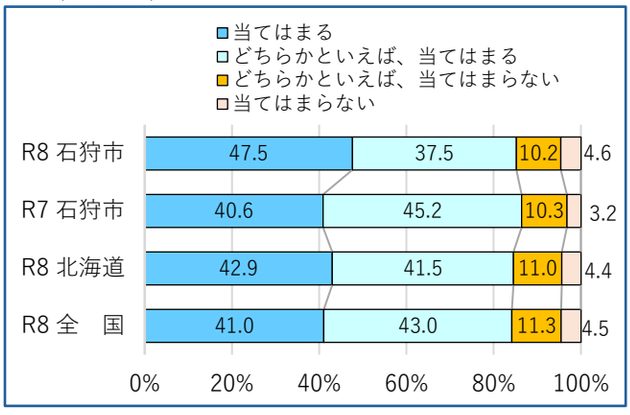
1 自分には、よいところがあると思いますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-3.6%　全道差-2.8%

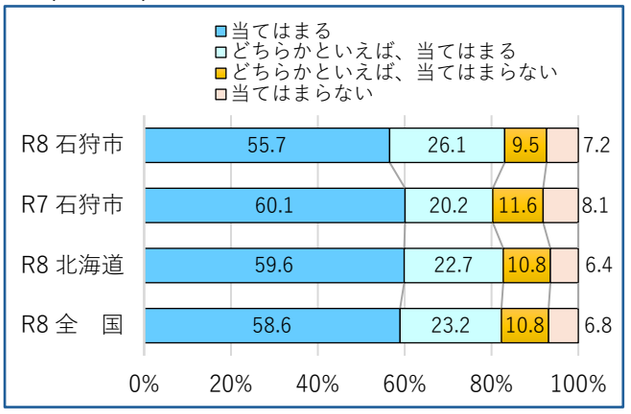
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+1.0%　全道差+0.6%

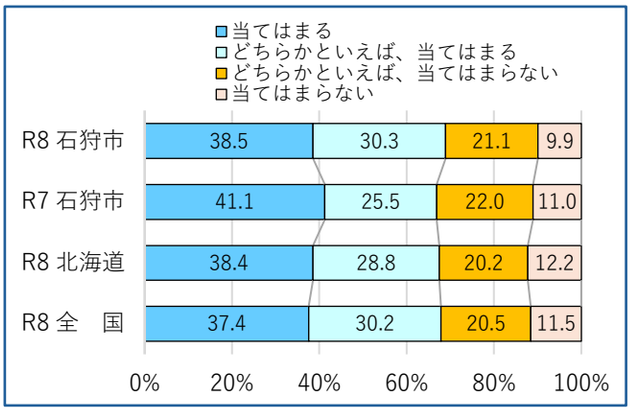
2 将来の夢や目標を持っていますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差±0%　全道差-0.5%

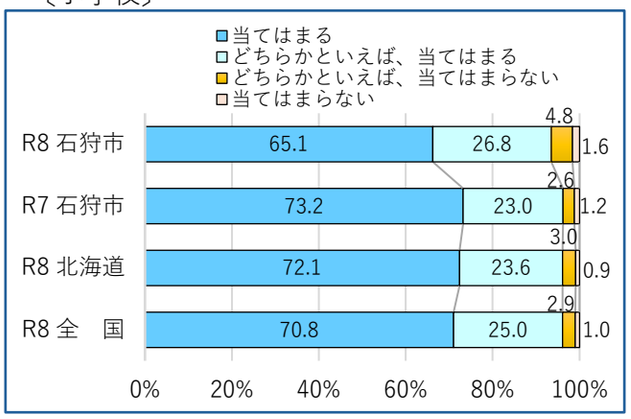
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+1.2%　全道差+1.6%

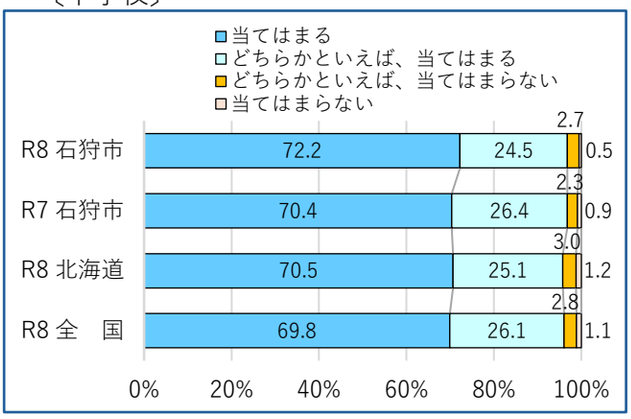
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-3.9%　全道差-3.8%

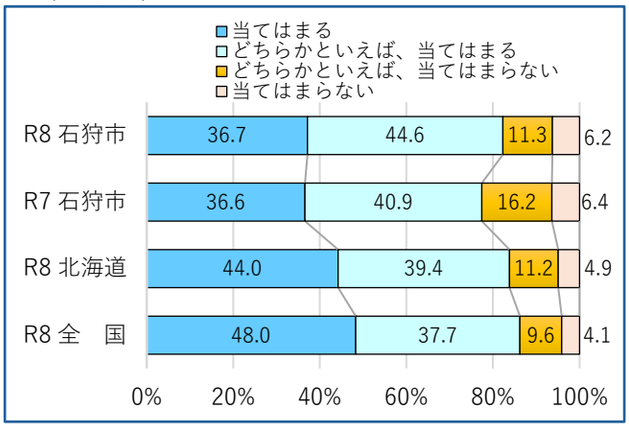
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+0.8%　全道差+1.1%

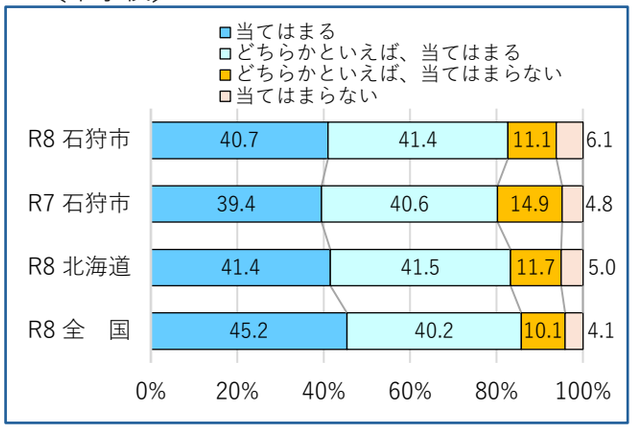
4 学校に行くのは楽しいと思いますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-4.4%　全道差-2.1%

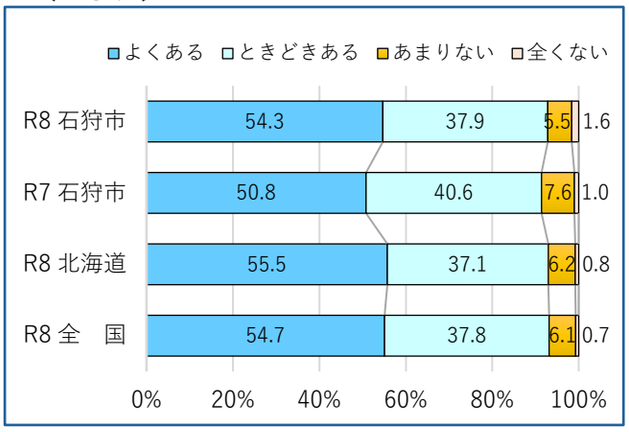
〔中学校〕



肯定的回答　全国差-3.3%　全道差-0.8%

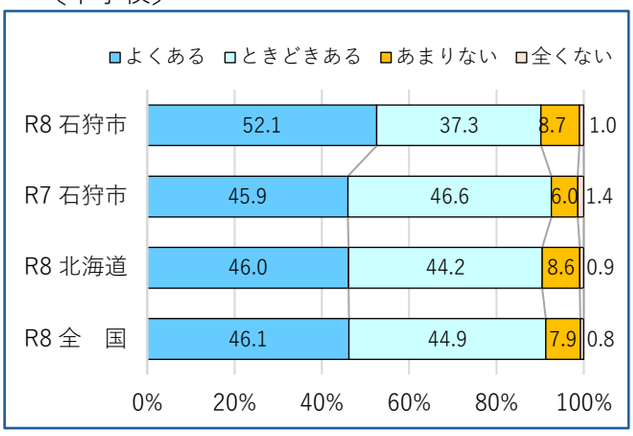
5 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-0.3%　全道差-0.4%

〔中学校〕

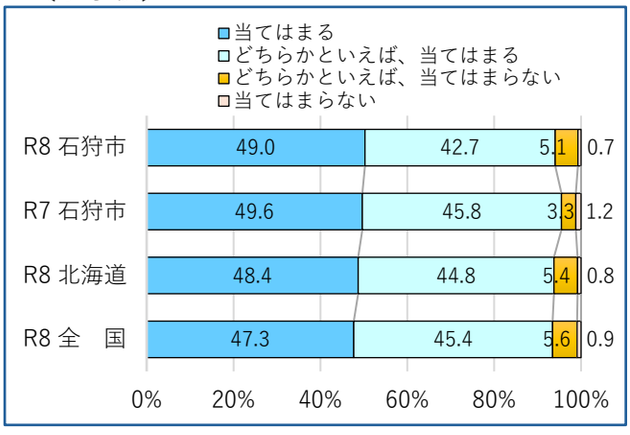


肯定的回答　全国差-1.6%　全道差-0.8%

Ⅱ 人との関わりについて

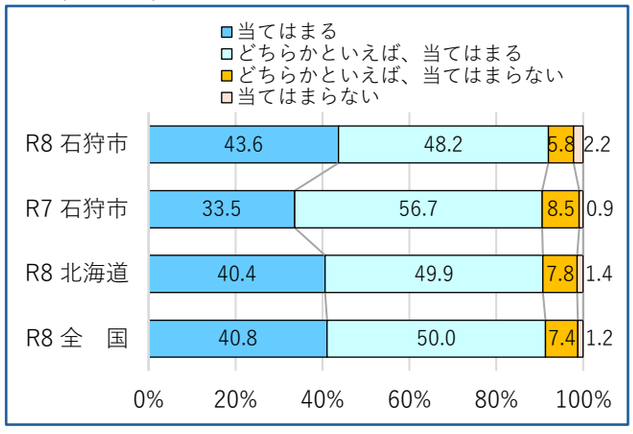
6 人が困っているときは、進んで助けていますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-1.0%　全道差-1.5%

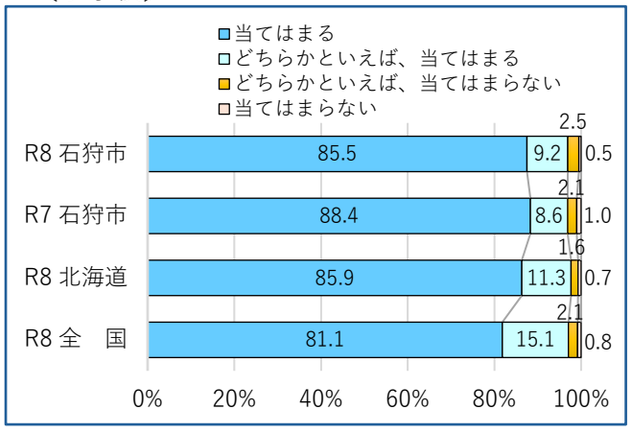
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+1.0%　全道差+1.5%

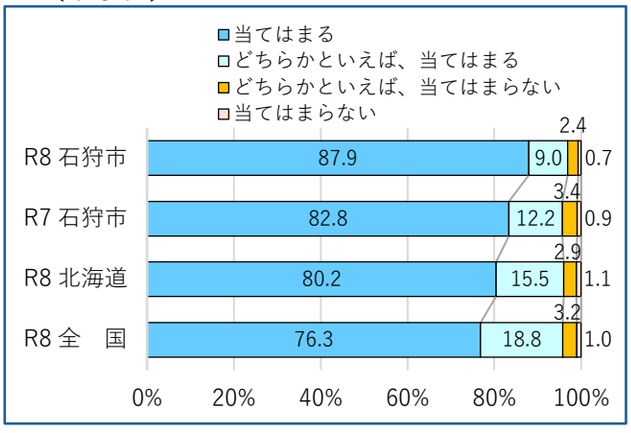
7 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

〔小学校〕



当てはまる　全国差+4.4%　全道差-0.4%

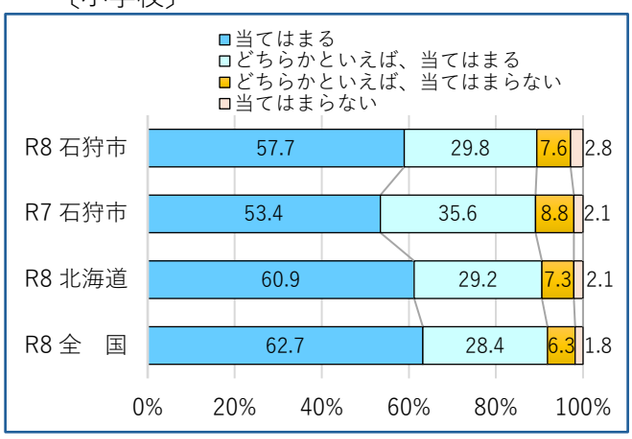
〔中学校〕



当てはまる　全国差+11.6%　全道差+7.7%

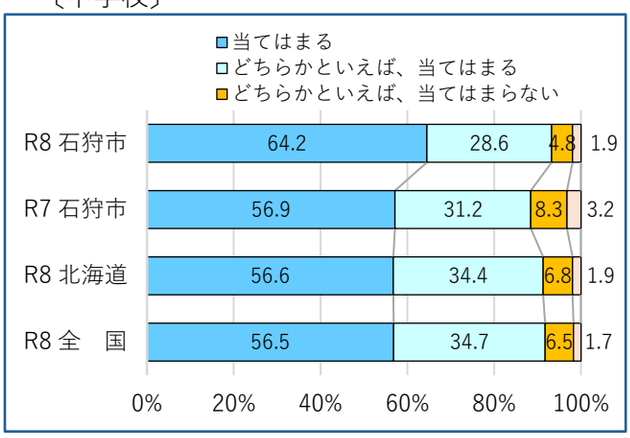
8 友人関係に満足していますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-3.6%　全道差-2.6%

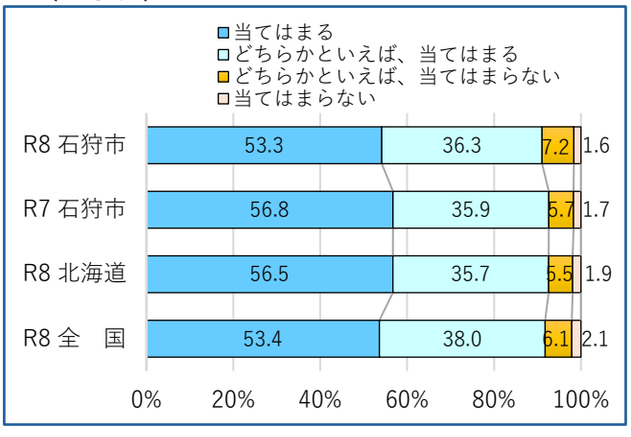
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+1.6%　全道差+1.8%

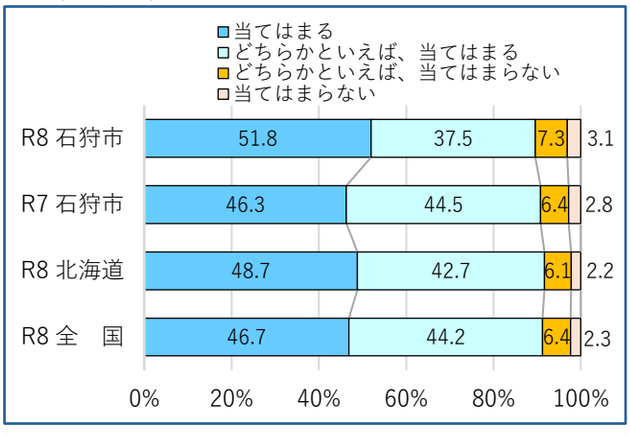
9 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-1.8%　全道差-2.6%

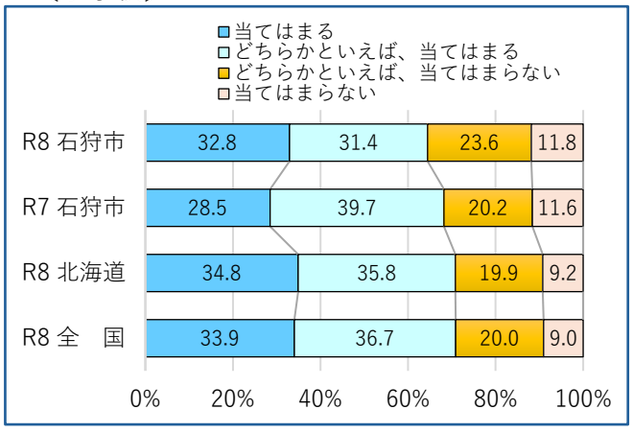
〔中学校〕



肯定的回答　全国差-1.6%　全道差-2.1%

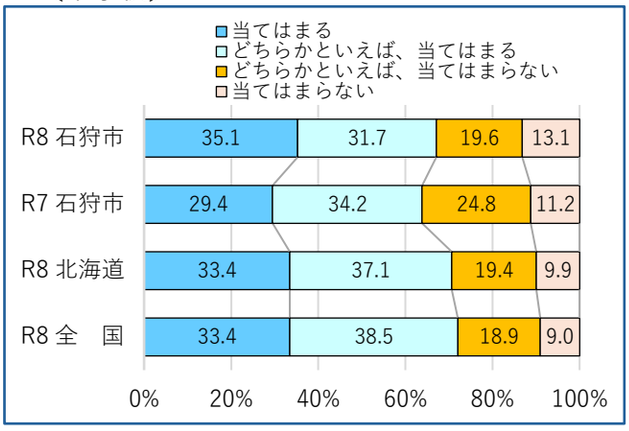
10 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-2.4%　全道差-0.3%

〔中学校〕

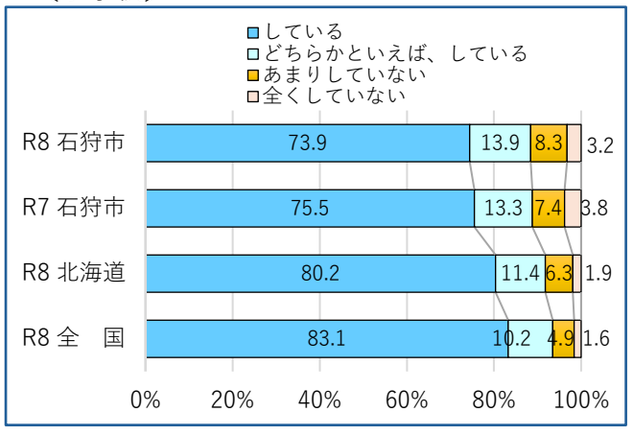


肯定的回答　全国差-5.1%　全道差-3.7%

Ⅲ 家庭生活について

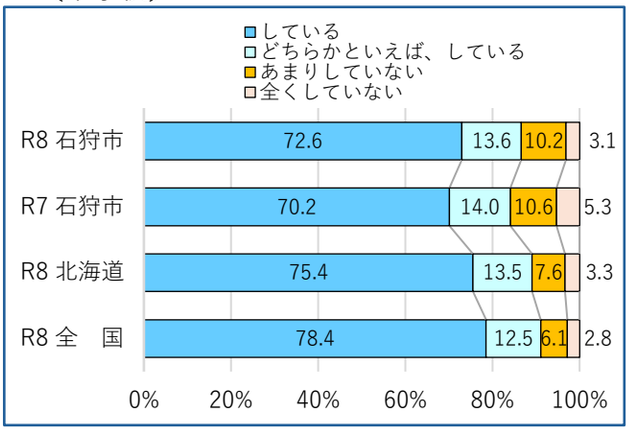
11 朝食を毎日食べていますか

〔小学校〕



している　全国差-9.2%　全道差-6.3%

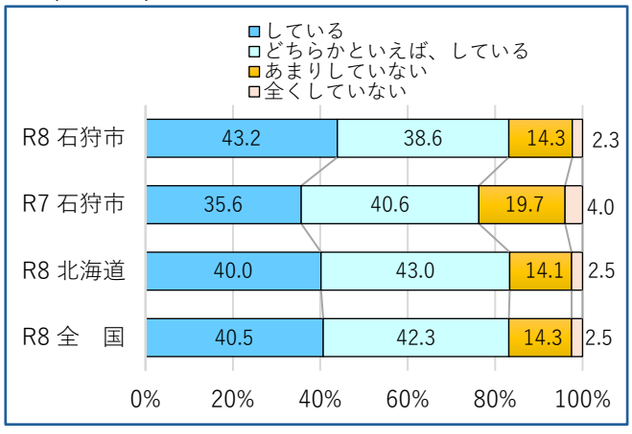
〔中学校〕



している　全国差-5.8%　全道差-2.8%

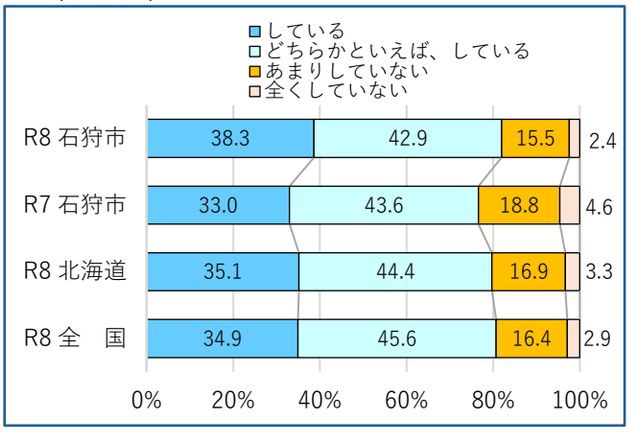
12 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

〔小学校〕



している　全国差+2.7%　全道差+3.2%

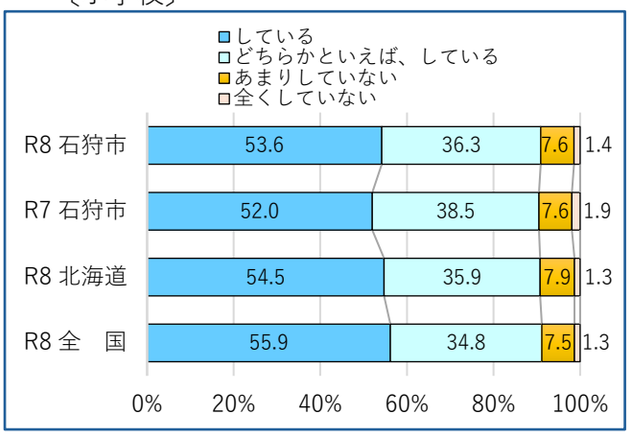
〔中学校〕



している　全国差+3.4%　全道差+3.2%

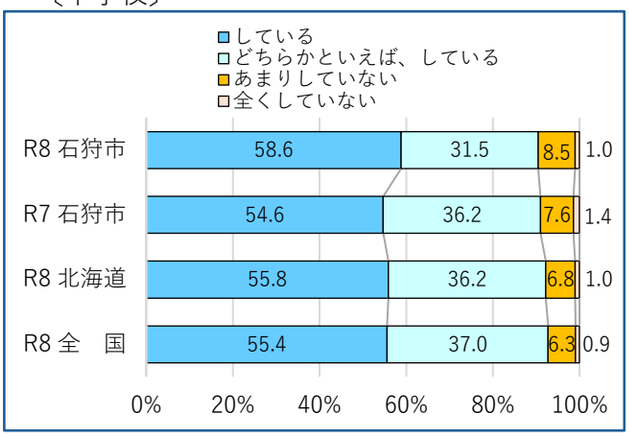
13 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

〔小学校〕



している　全国差-2.3%　全道差-0.9%

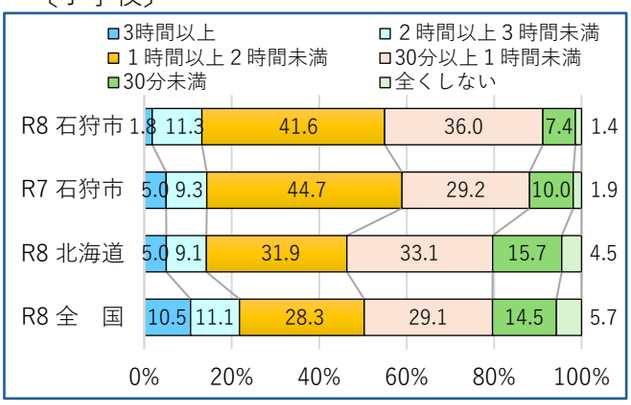
〔中学校〕



している　全国差+3.2%　全道差+2.8%

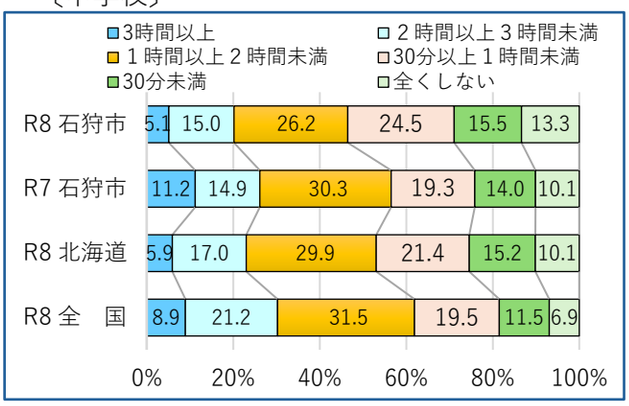
14 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

〔小学校〕



１時間以上　全国差+4.8%　全道差+8.7%

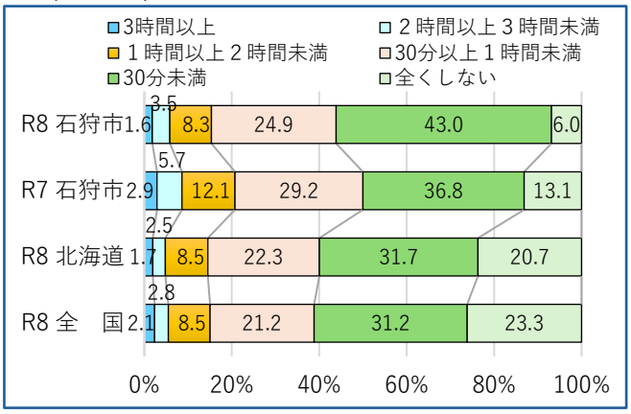
〔中学校〕



１時間以上　全国差-15.3%　全道差-6.5%

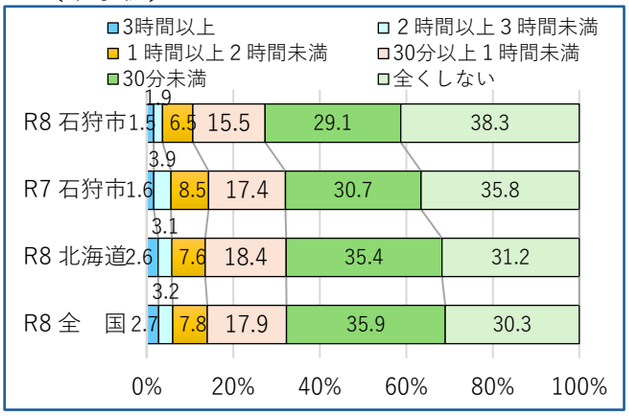
15 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）

〔小学校〕



30分以上　全国差+3.7%　全道差+3.3%

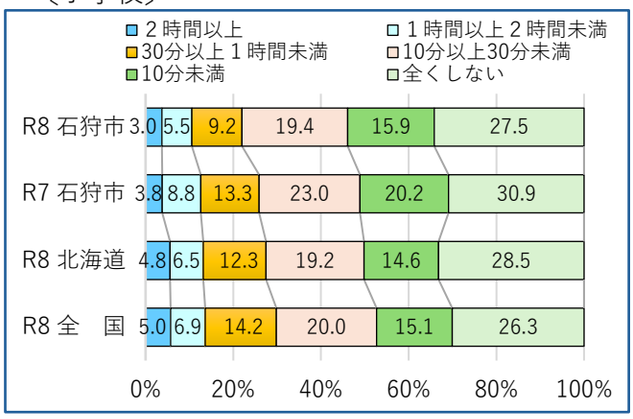
〔中学校〕



30分以上　全国差+0.8%　全道差+1.7%

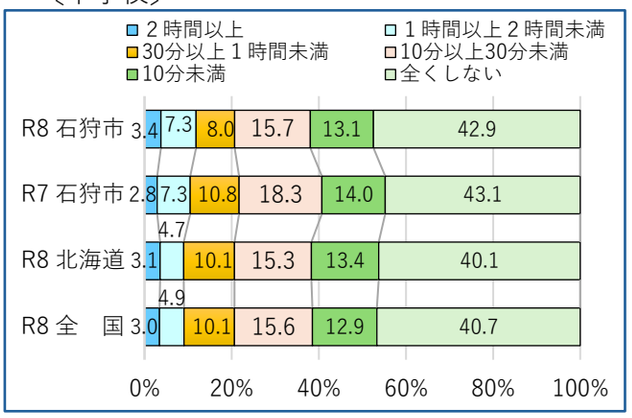
16 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

〔小学校〕



10分以上　全国差-7.8%　全道差-6.1%

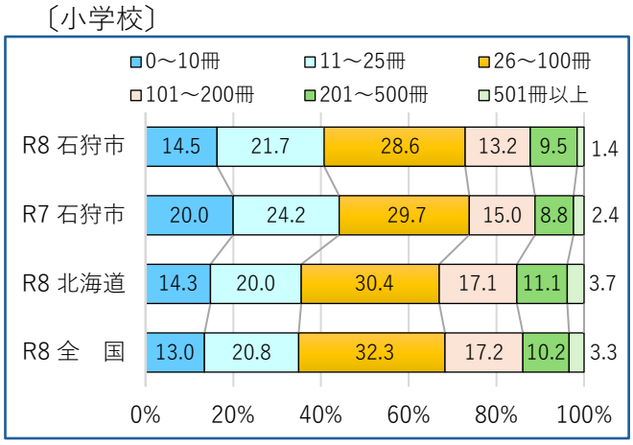
〔中学校〕



10分以上　全国差+0.6%　全道差+0.4%

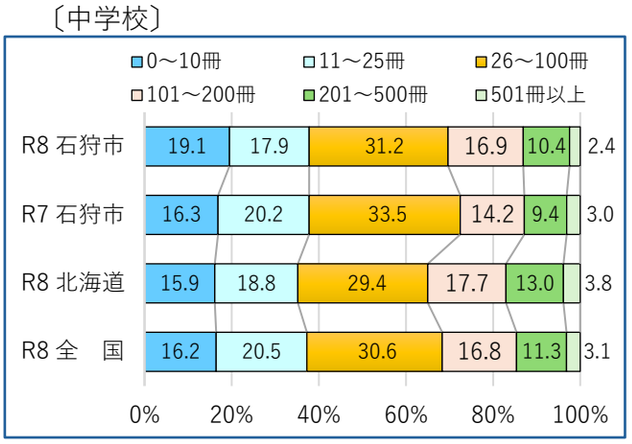
17 あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）

〔小学校〕



101冊以上　全国差-6.6%　全道差-7.8%

〔中学校〕

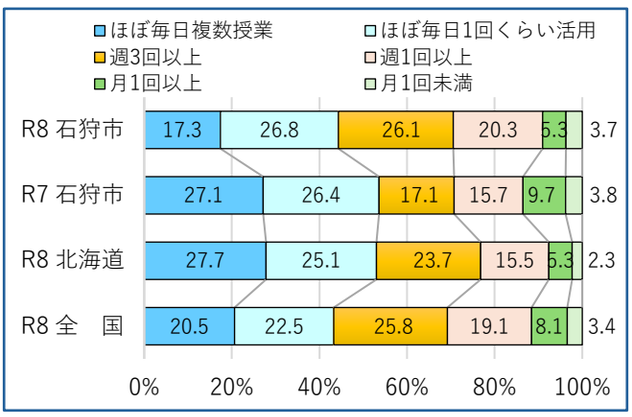


101冊以上　全国差-1.5%　全道差-4.8%

Ⅳ 学習について

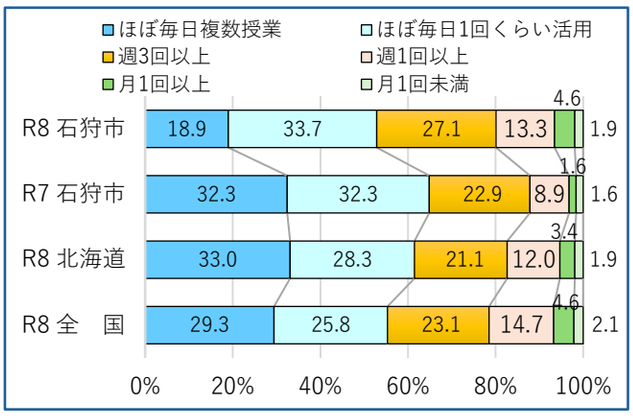
18 小５年〔中１・２年〕までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか

〔小学校〕



ほぼ毎日　全国差+1.1%　全道差-8.7%

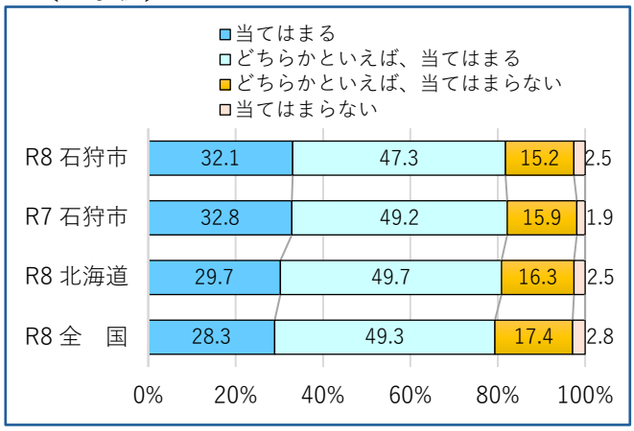
〔中学校〕



ほぼ毎日　全国差-2.5%　全道差-8.7%

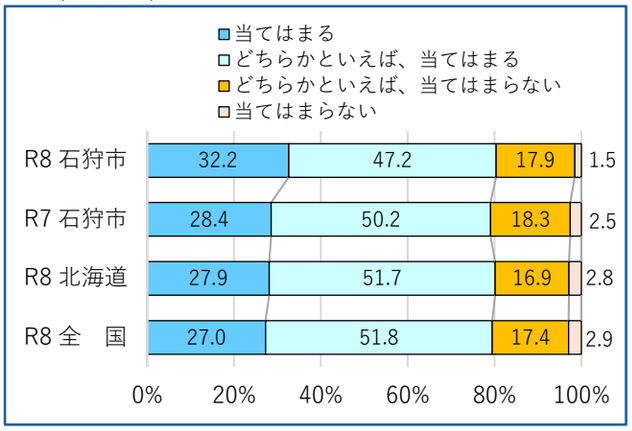
19 小５年〔中１・２年〕までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差+1.8%　全道差±0%

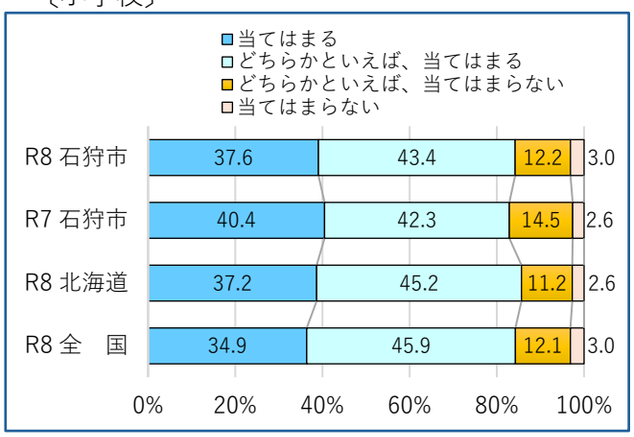
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+0.6%　全道差-0.2%

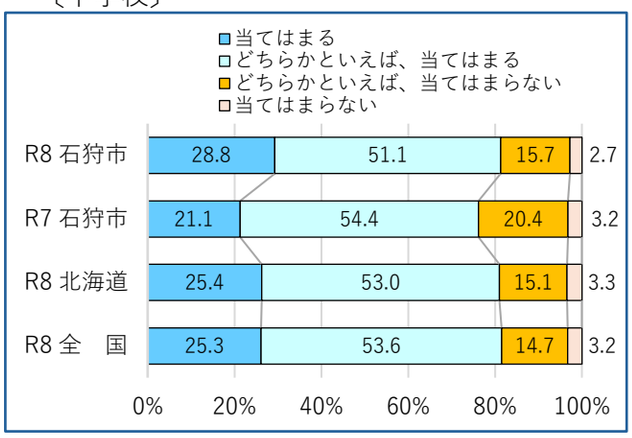
20 小５年〔中１・２年4〕までに受けた授業では、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-0.2%　全道差-1.4%

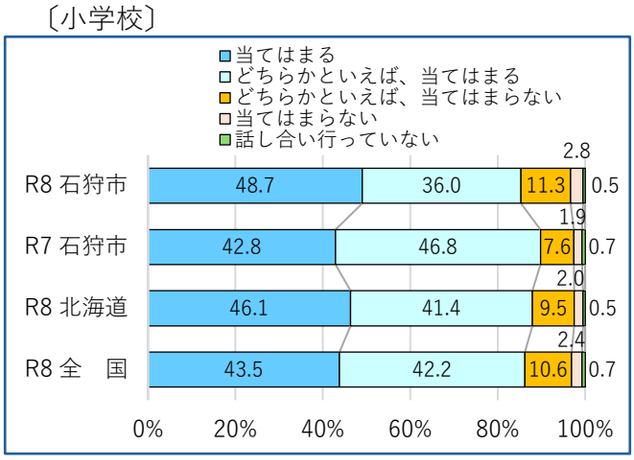
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+1.0%　全道差+1.5%

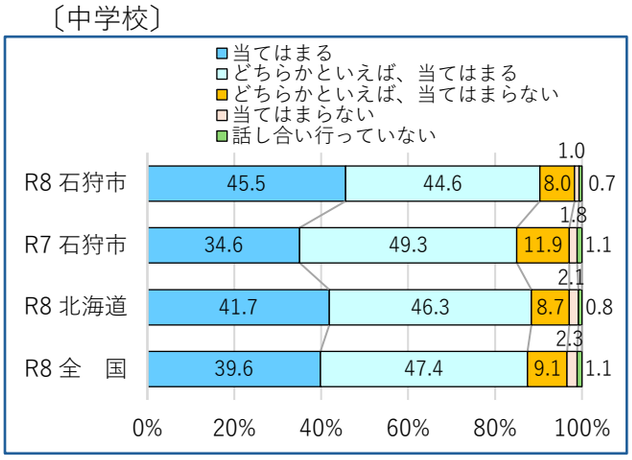
21 小５年〔中１・２年〕までに受けた授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-1.0%　全道差-2.8%

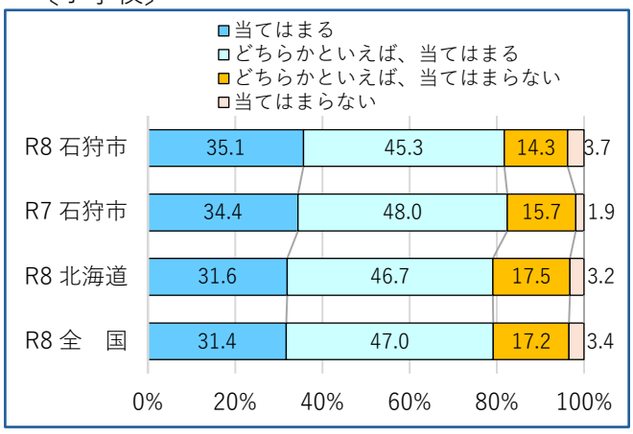
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+3.1%　全道差+2.1%

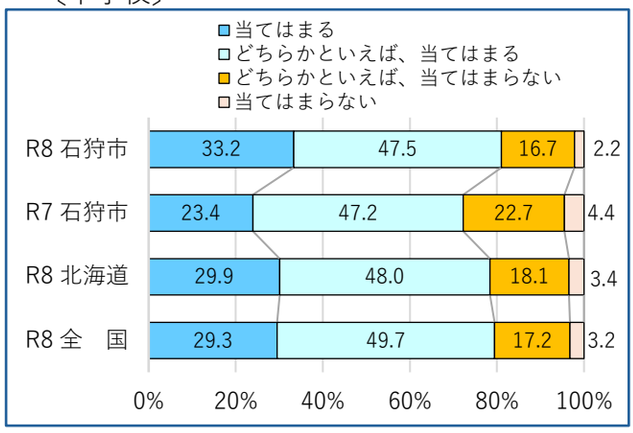
22 小５年〔中１・２年〕までに受けた授業では、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差+2.0%　全道差+2.1%

〔中学校〕

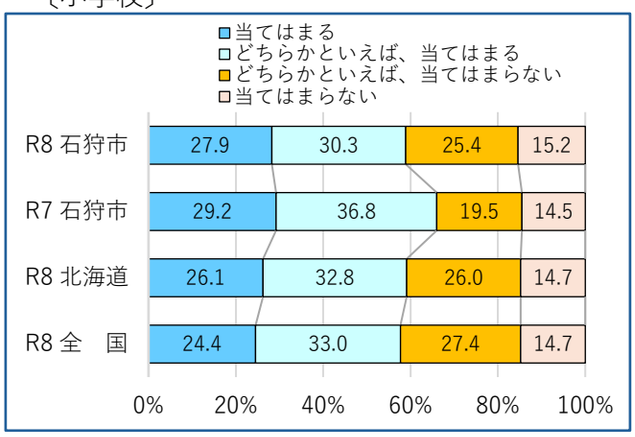


肯定的回答　全国差+1.7%　全道差+2.8%

V 教科について

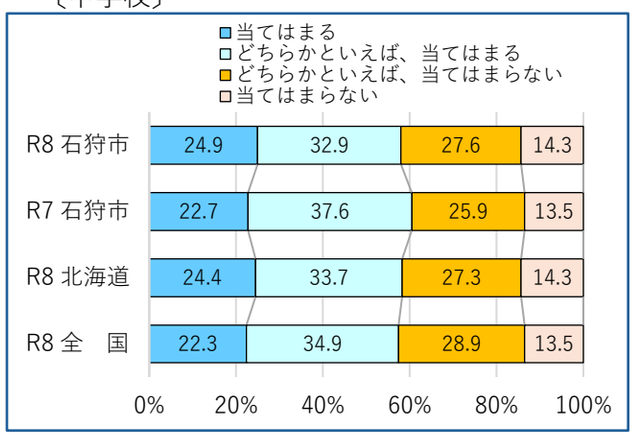
23 国語の勉強は好きですか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差+0.8%　全道差-0.7%

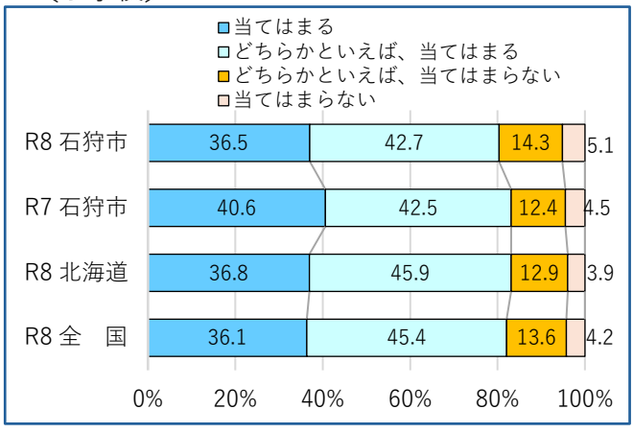
〔中学校〕



肯定的回答　全国差+0.6%　全道差-0.3%

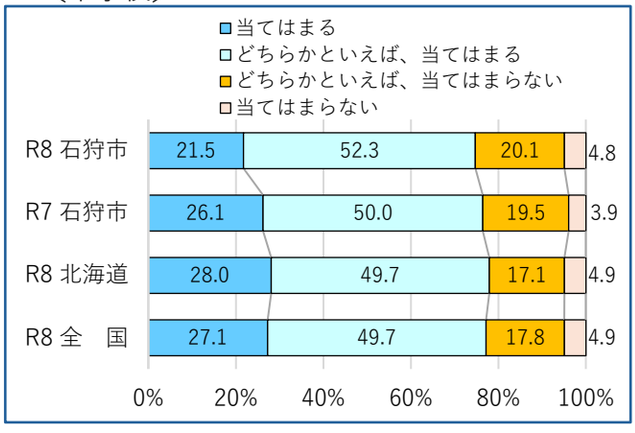
24 国語の授業の内容はよく分かりますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-2.3%　全道差-3.5%

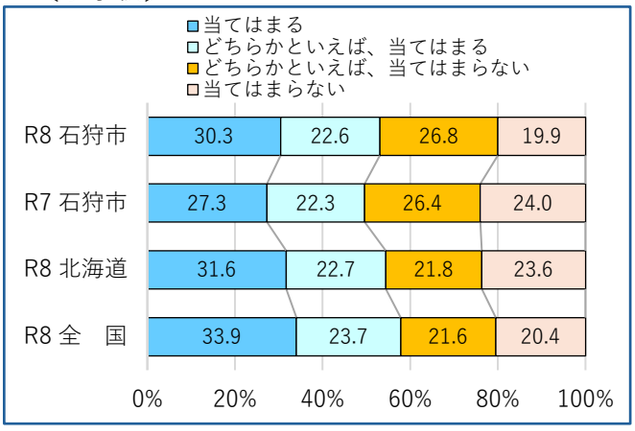
〔中学校〕



肯定的回答　全国差-3.0%　全道差-3.9%

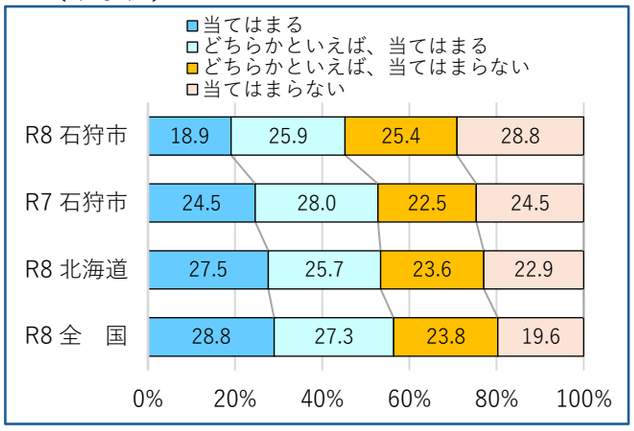
25 算数・数学の勉強は好きですか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差-4.7%　全道差-1.4%

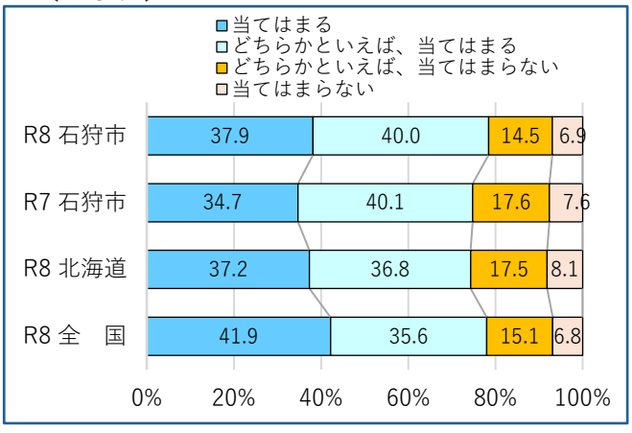
〔中学校〕



肯定的回答　全国差-11.3%　全道差-8.4%

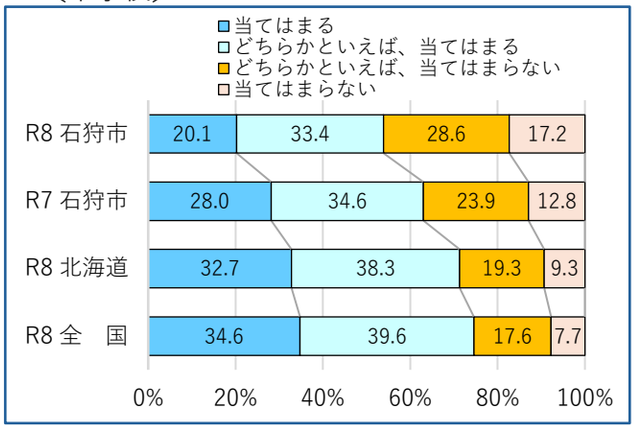
26 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか

〔小学校〕



肯定的回答　全国差+0.4%　全道差+3.9%

〔中学校〕



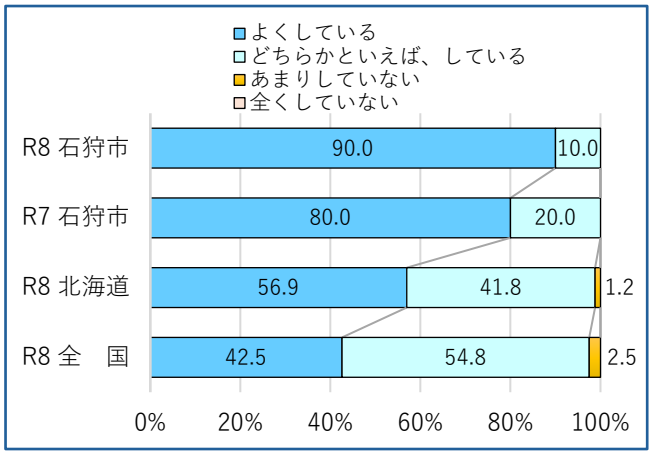
肯定的回答　全国差-20.7%　全道差-17.5%

令和８年度　全国学力・学習状況調査の結果分析
（学校質問調査）について

Ⅰ　学校運営の取組について

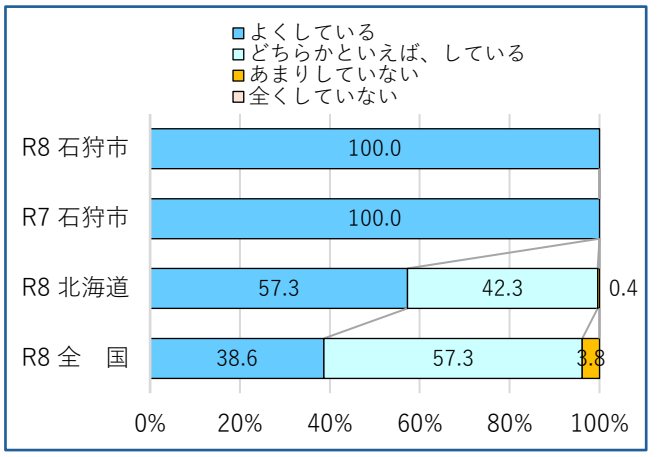
1 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立していますか

〔小学校〕



よくしている　全国差+47.5%　全道差+33.1%

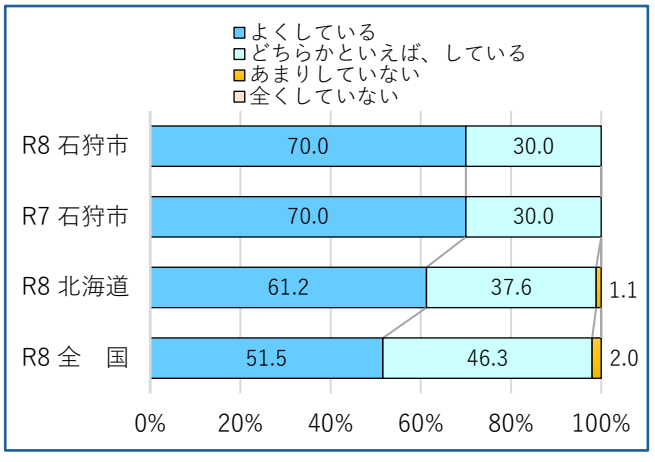
〔中学校〕



よくしている　全国差+61.4%　全道差+42.7%

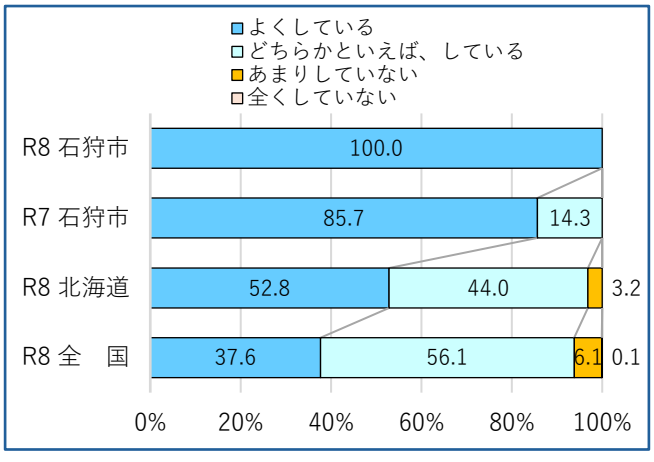
2 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

〔小学校〕



よくしている　全国差+18.5%　全道差+8.8%

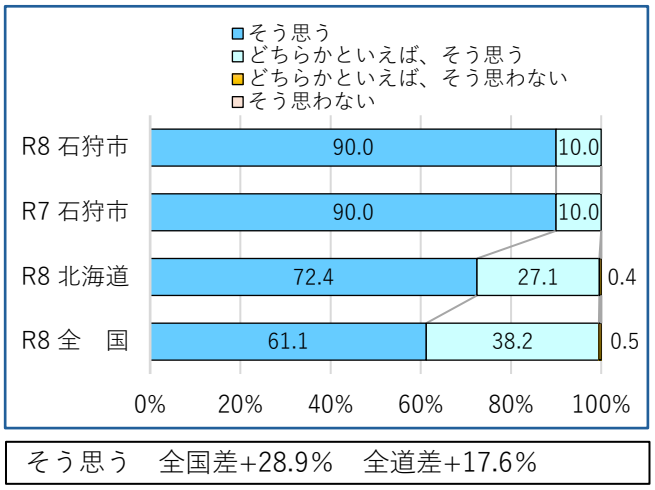
〔中学校〕



よくしている　全国差+62.4%　全道差+47.2%

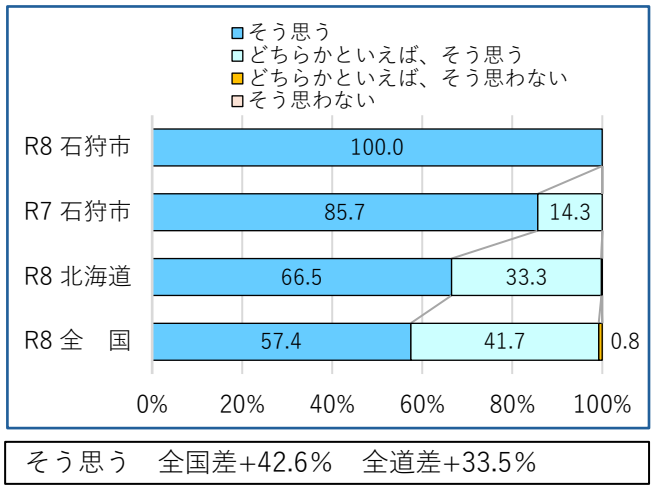
3 学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員（支援スタッフを含む）の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしている

〔小学校〕



そう思う　全国差+28.9%　全道差+17.6%

〔中学校〕

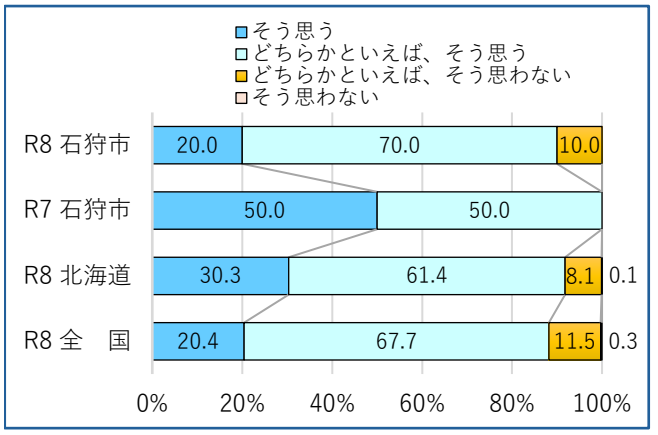


そう思う　全国差+42.6%　全道差+33.5%

Ⅱ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の取組について

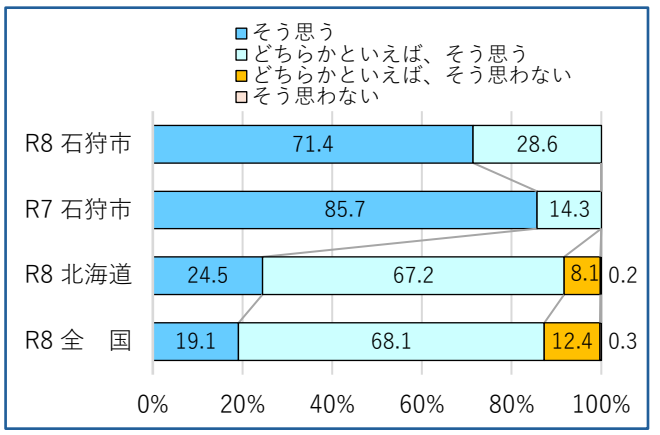
4 調査対象学年の児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

〔小学校〕



そう思う　全国差-0.4%　全道差-10.3%

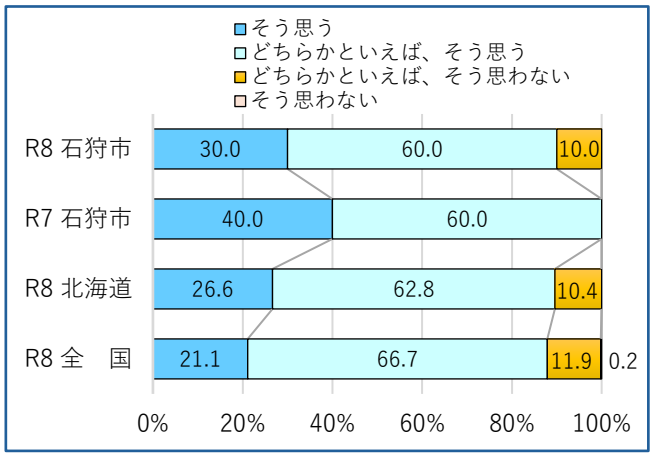
〔中学校〕



そう思う　全国差+52.3%　全道差+45.9%

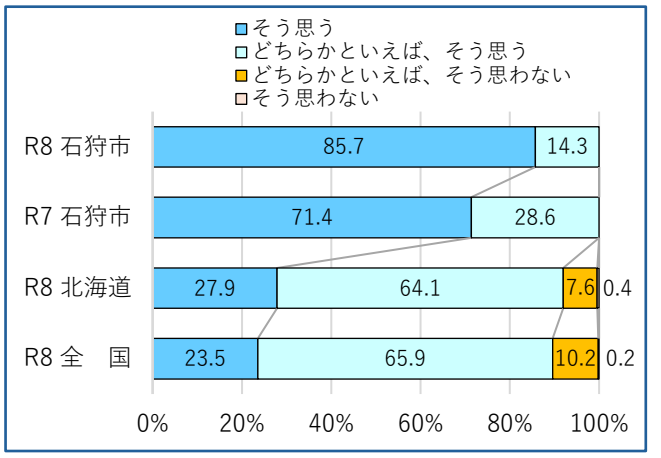
5 調査対象学年の児童生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

〔小学校〕



そう思う　全国差+8.9%　全道差+3.4%

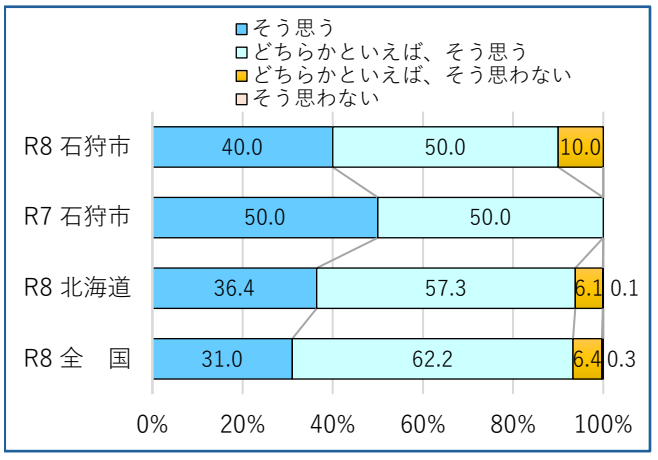
〔中学校〕



そう思う　全国差+62.2%　全道差+57.8%

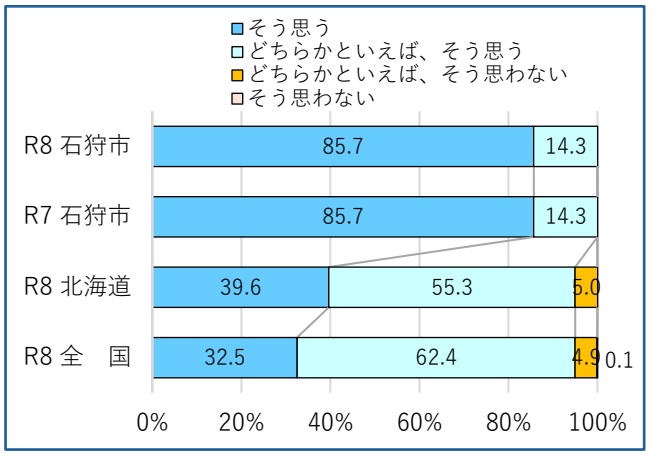
6 調査対象学年の児童生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

〔小学校〕



そう思う　全国差+9.0%　全道差+3.6%

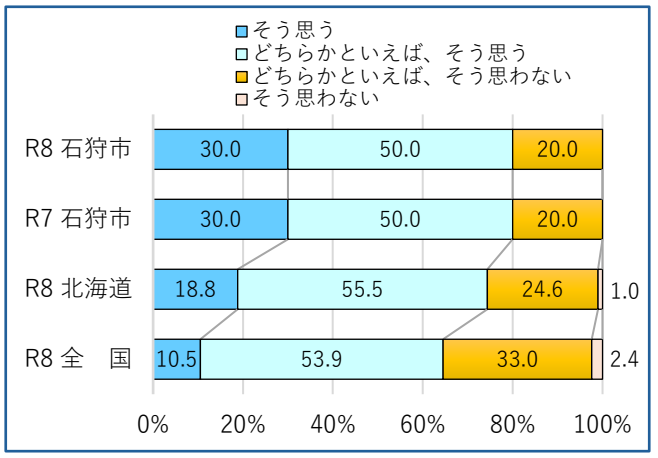
〔中学校〕



そう思う　全国差+53.2%　全道差+46.1%

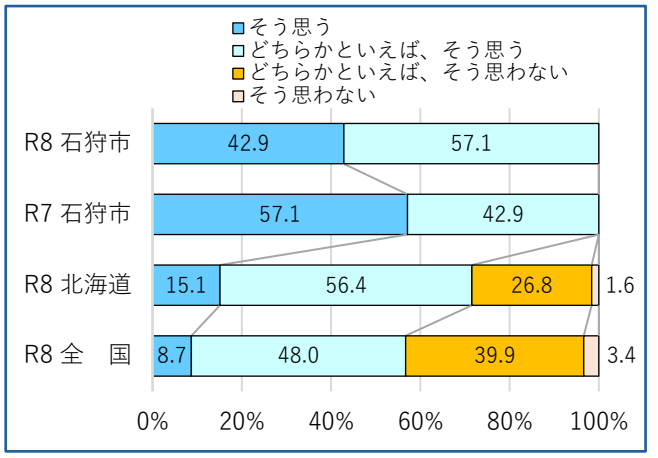
7 調査対象学年の児童生徒は、授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか

〔小学校〕



そう思う　全国差+19.5%　全道差+11.2%

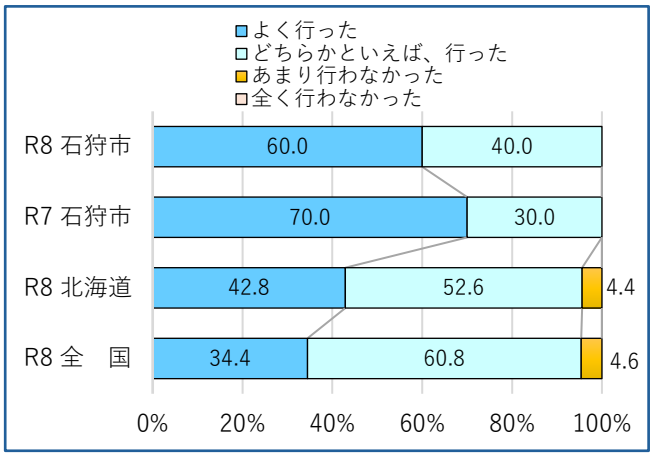
〔中学校〕



そう思う　全国差+34.2%　全道差+27.8%

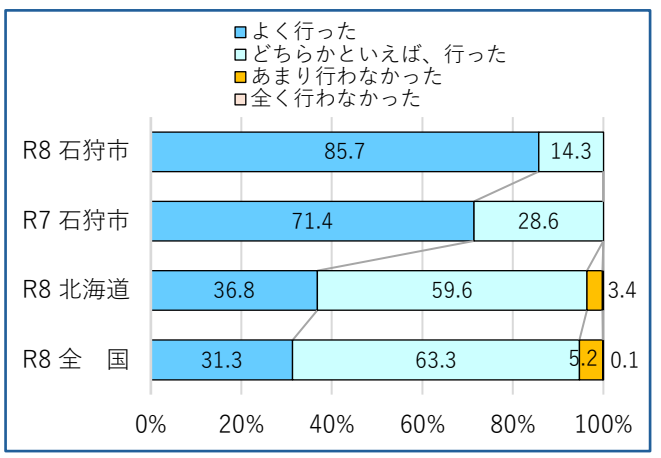
8 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+25.6%　全道差+17.2%

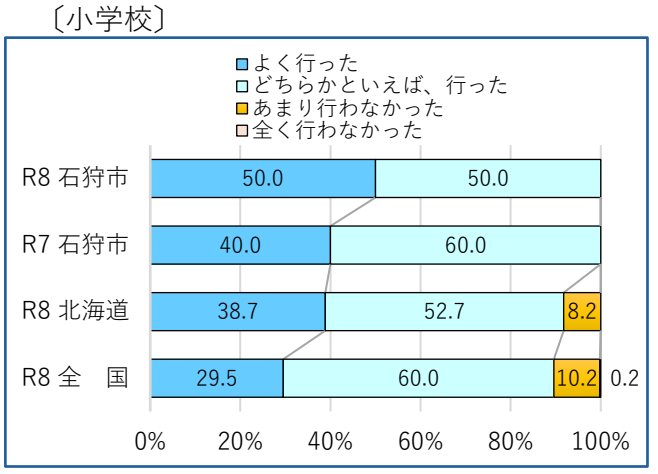
〔中学校〕



よく行った　全国差+54.4%　全道差+48.9%

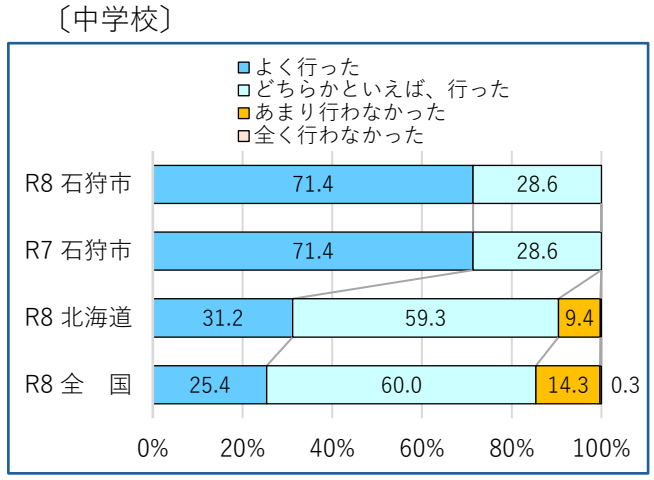
9 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+20.5%　全道差+11.3%

〔中学校〕

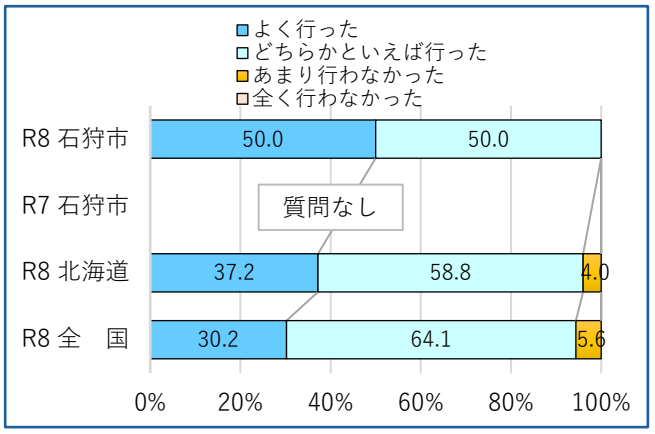


よく行った　全国差+46.0%　全道差+40.2%

Ⅲ 教科の指導方法について

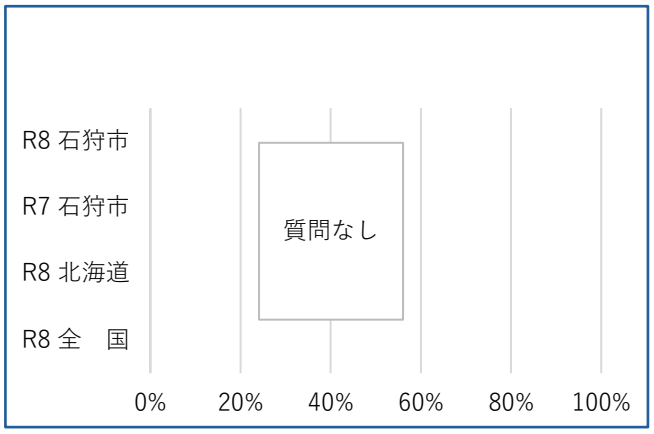
10 【小学校】調査対象学年の児童に対して、前年度までに、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+19.8%　全道差+12.8%

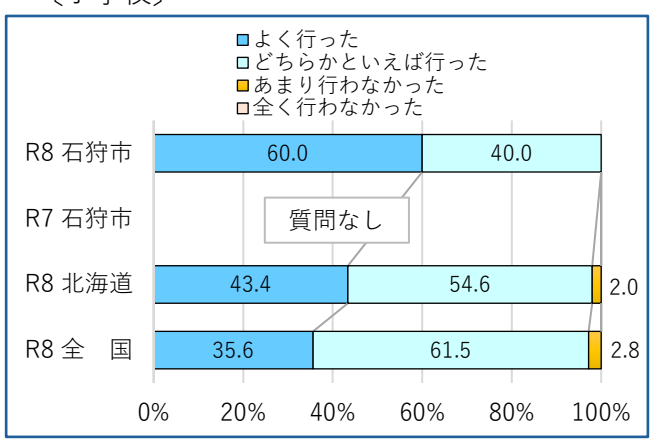
〔中学校〕



質問なし

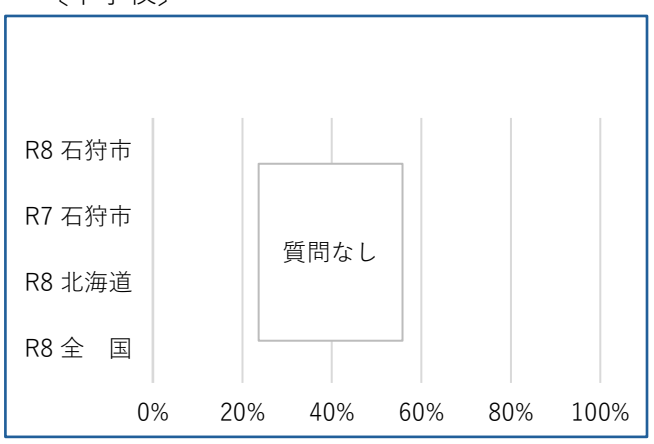
11 【小学校】調査対象学年の児童に対して、前年度までに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+24.4%　全道差+16.6%

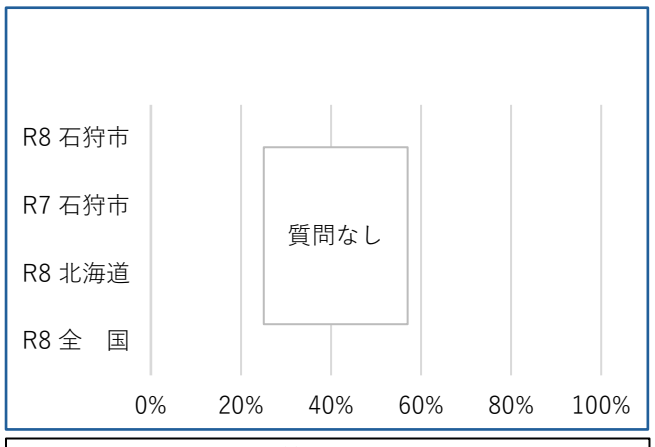
〔中学校〕



質問なし

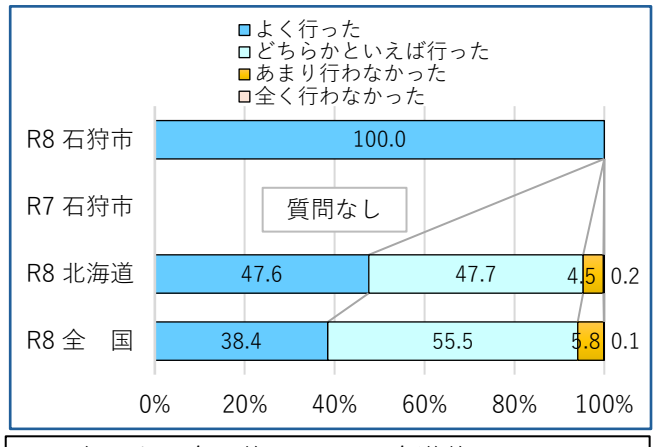
12【中学校】調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



質問なし

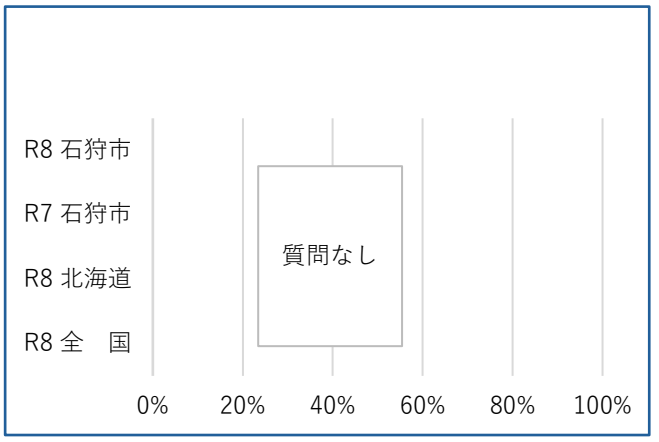
〔中学校〕



よく行った　全国差+61.6%　全道差+52.4%

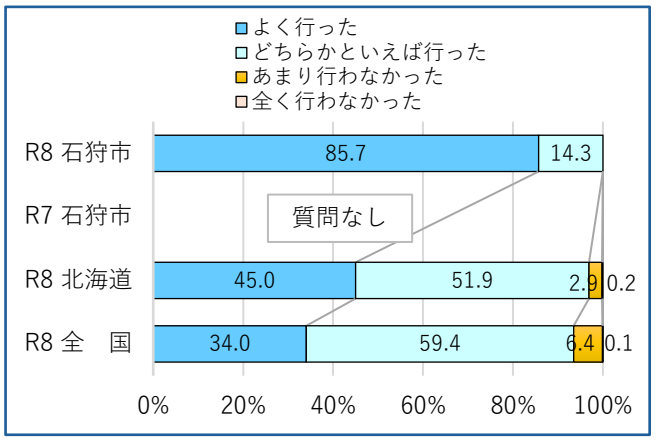
13 【中学校】調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができるような指導を行いましたか

〔小学校〕



質問なし

〔中学校〕



よく行った　全国差+51.7%　全道差+40.7%

14 【小学校】調査対象学年の児童生徒に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか

〔小学校〕

よく行った　全国差+22.1%　全道差+13.7%

〔中学校〕

質問なし

15 【中学校】調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか

〔小学校〕

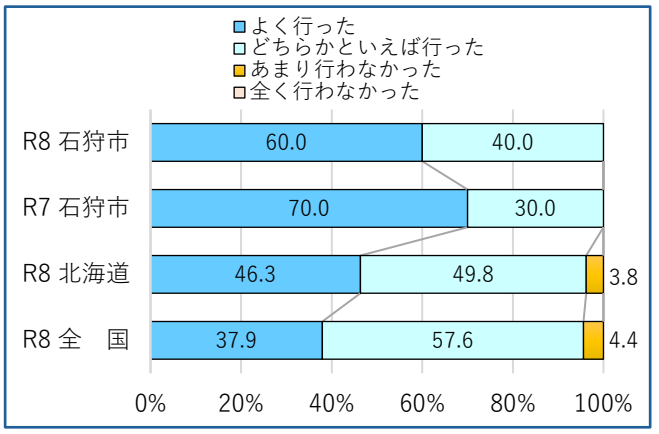
質問なし

〔中学校〕

よく行った　全国差+48.2%　全道差+37.9%

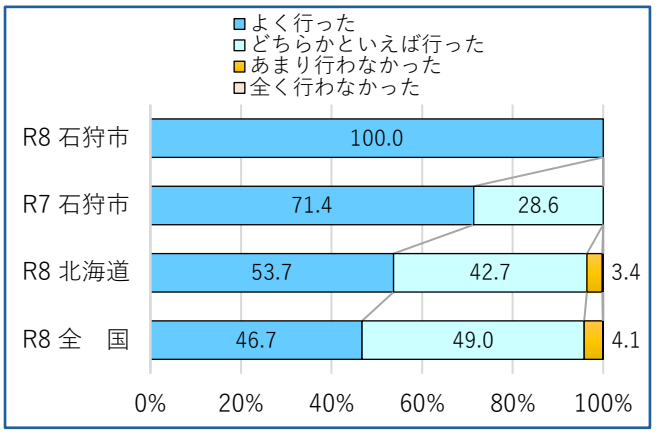
16 調査対象学年の児童生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+22.1%　全道差+13.7%

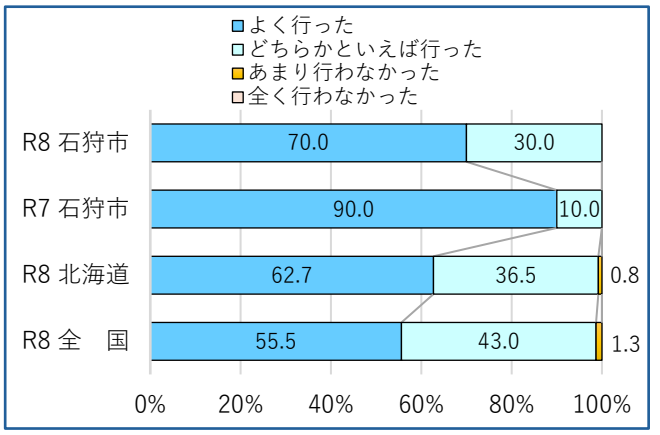
〔中学校〕



よく行った　全国差+53.3%　全道差+46.3%

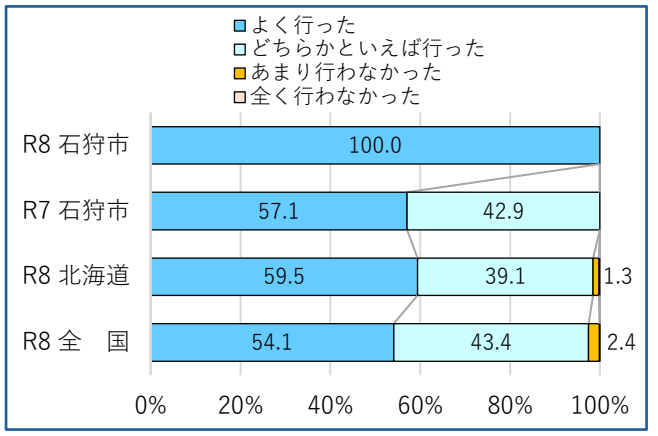
17 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を小学校は 整理し考察する指導、中学校は分析し解釈する指導を行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+14.5%　全道差+7.3%

〔中学校〕

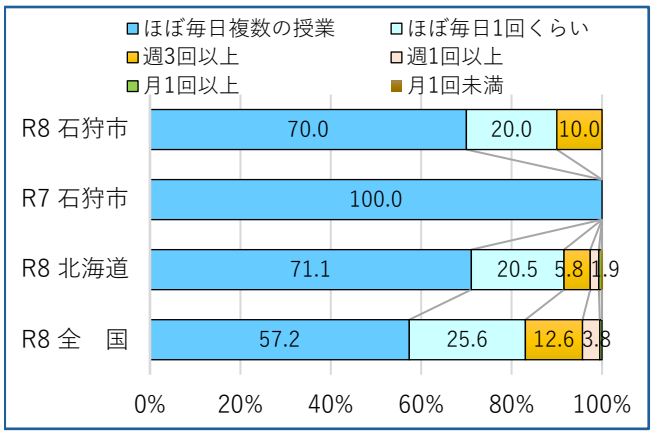


よく行った　全国差+45.9%　全道差+40.5%

Ⅳ ICTを活用した学習状況について

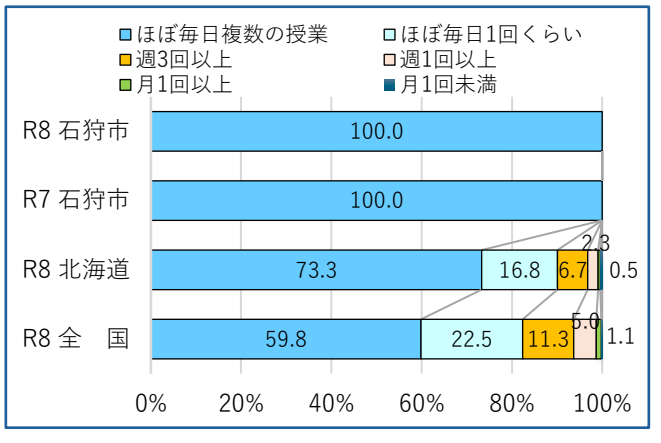
18 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

〔小学校〕



ほぼ毎日複数　全国差+12.8%　全道差-1.1%

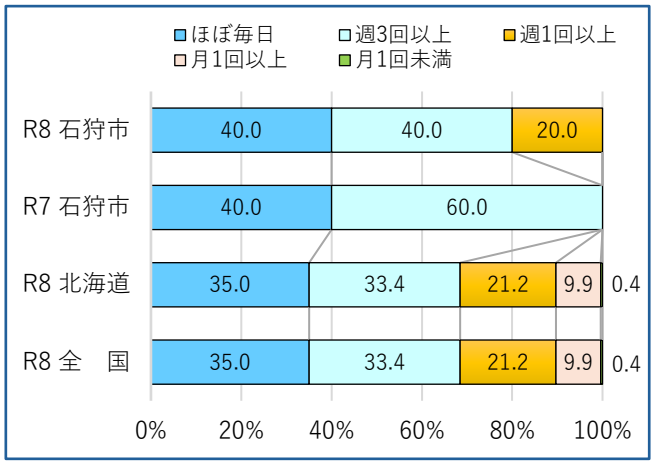
〔中学校〕



ほぼ毎日複数　全国差+40.2%　全道差+26.7%

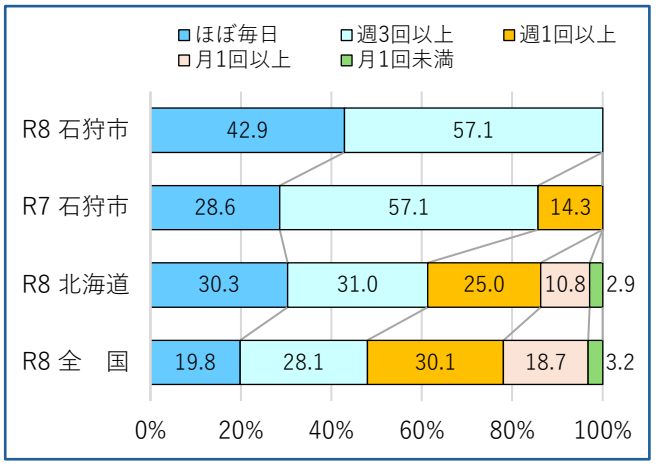
19 調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕



ほぼ毎日　全国差+5.0%　全道差+5.0%

〔中学校〕



ほぼ毎日　全国差+23.1%　全道差+12.6%

20 教職員と調査対象学年の児童生徒がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕

ほぼ毎日　全国差+15.7%　全道差+4.6%

〔中学校〕

ほぼ毎日　全国差+26.6%　全道差+11.9%

21 調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕

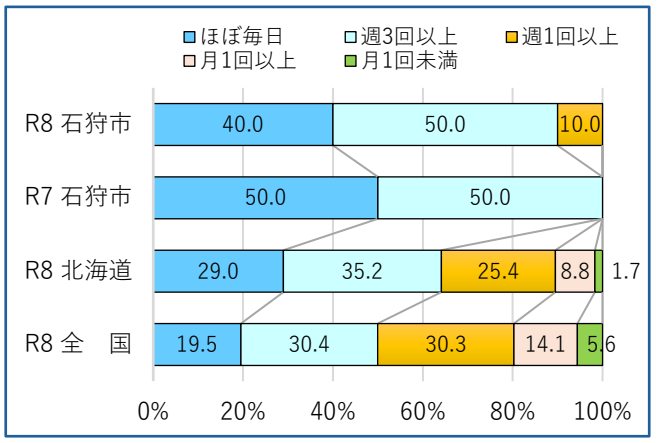
ほぼ毎日　全国差+21.8%　全道差+6.1%

〔中学校〕

ほぼ毎日　全国差+27.5%　全道差+17.3%

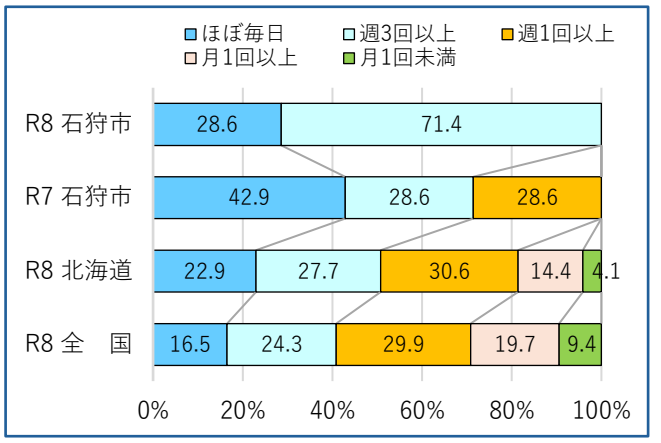
22 調査対象学年の児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

〔小学校〕



ほぼ毎日　全国差+20.5%　全道差+11.0%

〔中学校〕

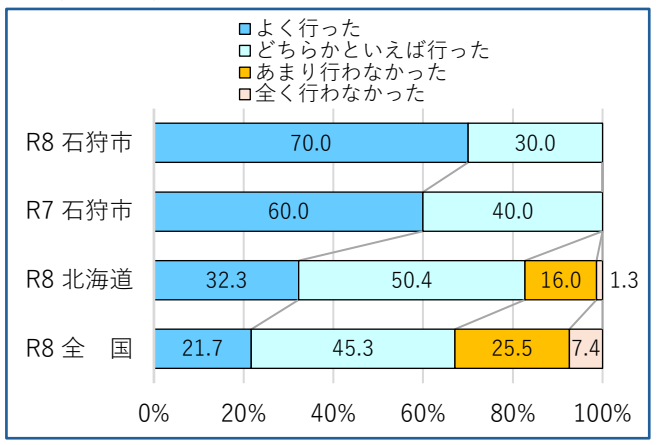


ほぼ毎日　全国差+12.1%　全道差+5.7%

V 小中連携、家庭・地域との連携について

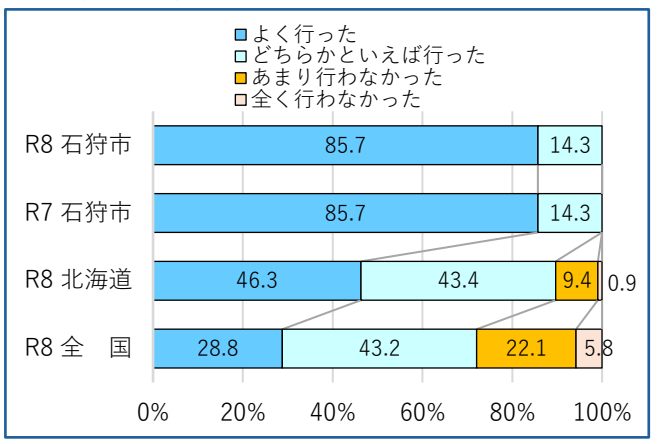
23 前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+48.3%　全道差+37.7%

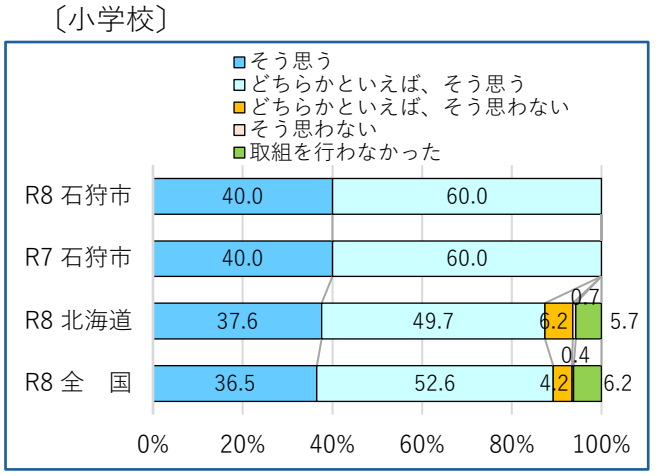
〔中学校〕



よく行った　全国差+56.9%　全道差+39.4%

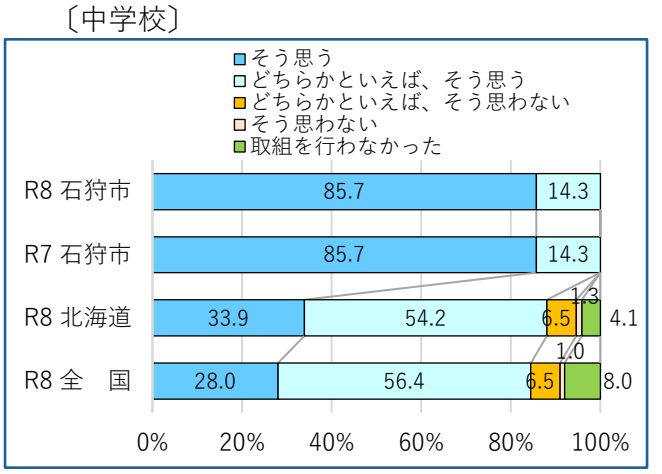
24 コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

〔小学校〕



そう思う　全国差+3.5%　全道差+2.4%

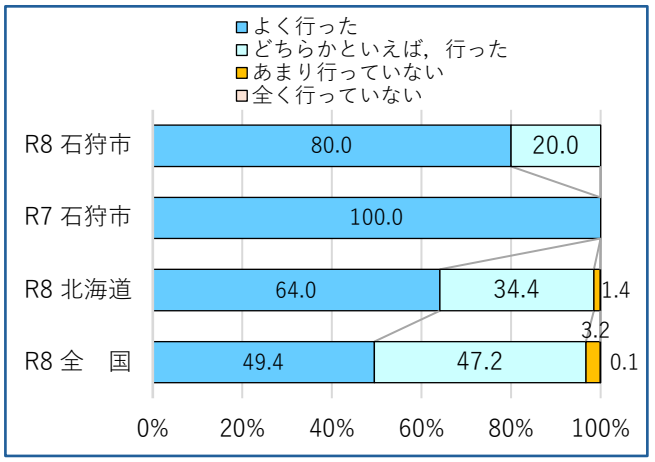
〔中学校〕



そう思う　全国差+57.7%　全道差+51.8%

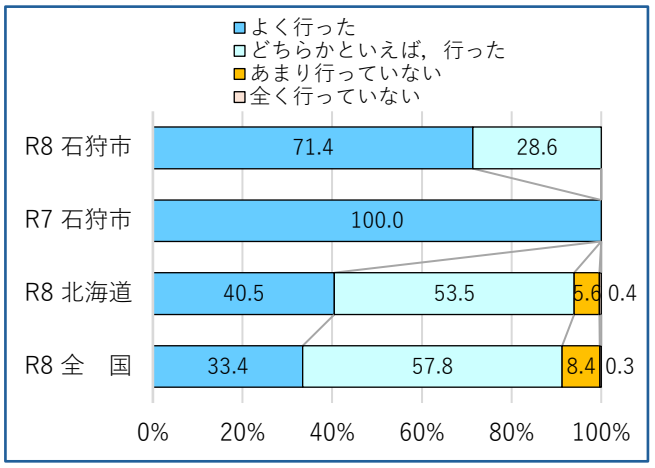
25 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+30.6%　全道差+16.0%

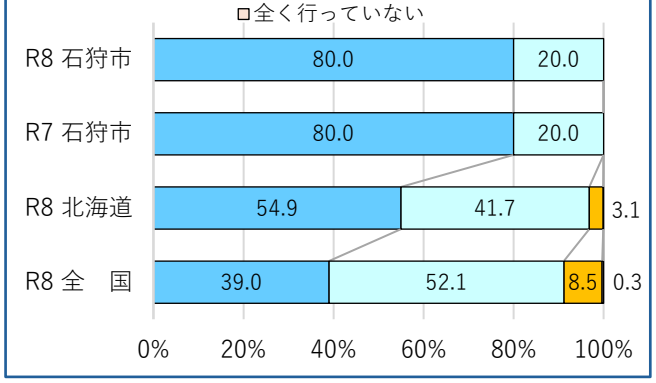
〔中学校〕



よく行った　全国差+38.0%　全道差+30.9%

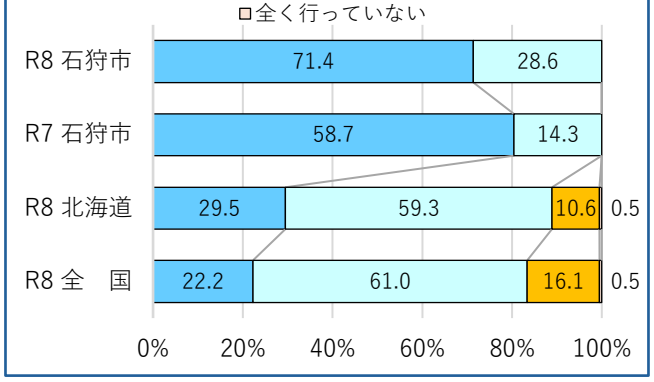
26 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか

〔小学校〕



よく行った　全国差+41.0%　全道差+25.1%

〔中学校〕



よく行った　全国差+49.2%　全道差+41.9%